

6539 15-4-1



拓本の味

若山 永太郎

(昭一三)

緑丘

全国版

(通巻)No. 41号
(39年度5号)

(編集責任者)
大阪市東区道修町三の一
塩野義製菓株式会社内
藤目英三
(緑丘大阪支部)
大阪市北区梅田八番地
新阪急ビル8階
サッポロビール(株)内

拓本は単なる碑文のプリントではない。
碑面の刻字彫画からは独立した独自の芸術的鑑賞の対象である。写真や絵とはまた違った独自の味わいがある。

私が拓本と云うものを初めて見せられたのは、商業学校時代に恩師横山武夫先生が内村鑑三先生の墓碑の有名な名句

I for Japan;
Japan for the World;
the World for Christ;
and all for God.

の拓本である。それ以来拓本に興味を覚えるようになった。自分自身でも下手なりに四、五枚とってみた。

拓本が好きだと云うので会社の社員が東南アジアに出張して、帰りのおみやげに戴いたのが、この頁に掲載されたカンボヂヤの有名なアンコールワット壁画の拓本である。

アンコールトムはカンボヂヤのトブレ・サップ湖北方にある。

クメール族の王都の遺跡、名は「大名城」の意。九世紀末から十二世紀にかけて築かれたものと伝えられている。全体は面積9km²の方形で、堀と城壁に囲まれている。

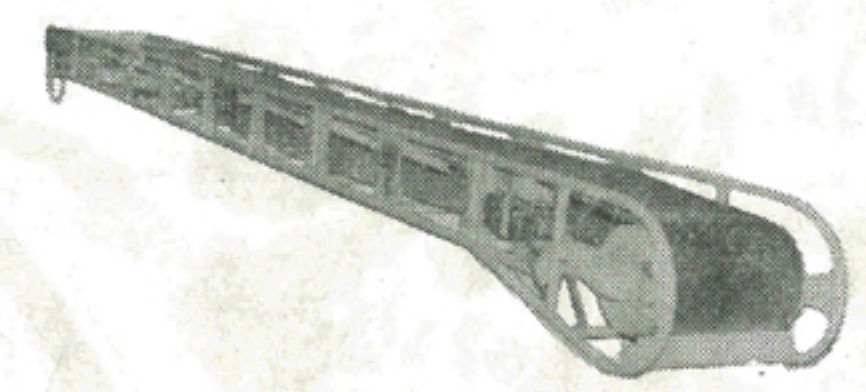
回廊はクメール風俗やインド神話を表わす浮彫りをもつ。掲載の拓本は其の一部と思う。

(丸嘉機械特専務取締役)



うまさもでっかい
話題の生ビール
サッポロジョイアンツ

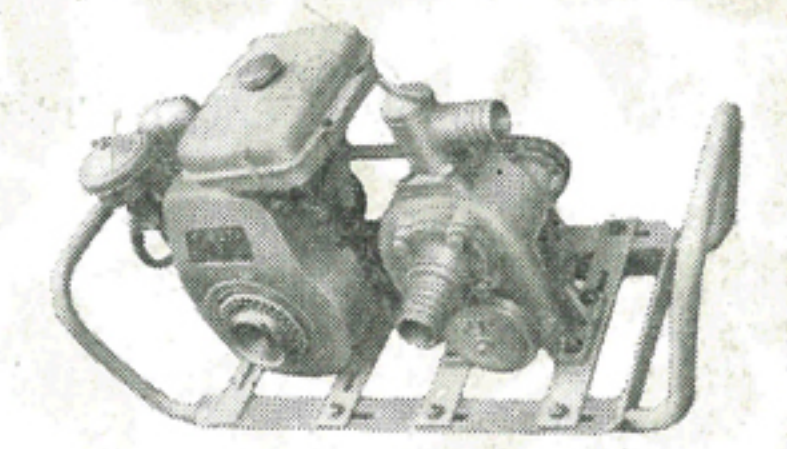
KYC 建設機械



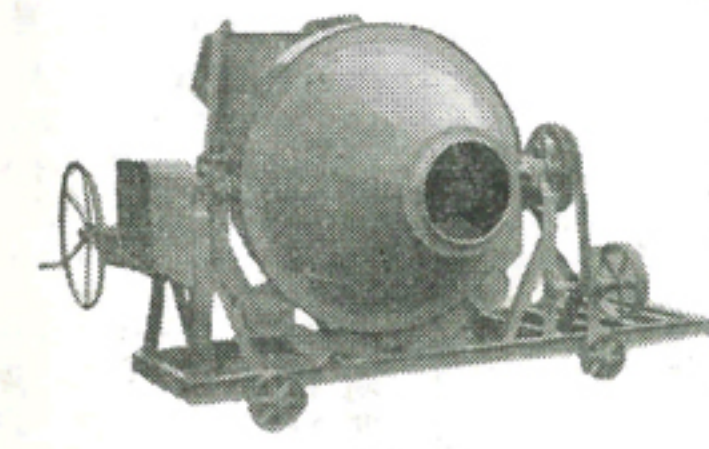
ベルトコンベヤー



バッチヤースケール



自吸式ポンプ



コンクリートミキサー

ニュークライマー

- 営業品目
- K.Y.C.コンベヤー各種
 - K.Y.C.ミキサー各種
 - K.Y.C.スケール各種
 - K.Y.C.モータープーリー各種
 - K.Y.C.ポンプ各種
 - K.Y.C.バッチャープラント各種

総合建設機械のトップメーカー

KYC 光洋機械工業株式会社

取締役社長 奥村正美(昭17)

本社	大阪市北区南同心町1丁目12番地	電話大阪(06)3091~5
大阪営業所	大阪市北区末広町12番地	電話大阪(351)2039・(928)6531番
東京営業所	東京都千代田区神田鎌倉町6番地	電話東京(252)2012・(254)5601~5番
上野営業所	東京都台東区東上野1丁目20番地	電話東京(832)8819・8820番
福岡営業所	福岡市中浜口町19番地	電話福岡(2)4161~4164番
広島営業所	広島市平塚町39番地	電話広島(41)6525番
関西出張所	大阪市北区末広町12番地	電話大阪(928)6532・6533番
近畿出張所	大阪市北区末広町12番地	電話大阪(928)6532番
高松出張所	高松市塩上町1181番地	電話高松(3)4392・2771番
鹿児島出張所	鹿児島市加治屋町16の10番地	電話鹿児島(2)3055番
名古屋出張所	名古屋市東区堅代官町14番地	電話名古屋(94)1315・2860番
富山出張所	富山市豊川町17番地	電話富山(2)6505・2379番
仙台出張所	仙台市北2番丁83番地	電話仙台(22)5247・5592・6839番
札幌出張所	札幌市南11条西8丁目541の2	電話札幌(25)9868・(26)7964番
工場	寝屋川工場・守口工場・枚方工場・所沢工場	

読者の声

観光特集号を提唱する

小田島 和夫 (昭三一)

各号の意欲的な特集号の御計画敬服致しております。緑丘誌も今や全国的な同窓誌となりましたが、各地よりの先輩諸氏の御投稿御意見は正に貴重なものと存じます。小生観光問題に多少関心をもっているものですが、緑丘人で観光にたづさわっておられる方も多いいと思います。観光事業あるいはホテル経営等、観光問題に関する特集号を御計画されてはどうかと考えますので御提案申し上げます。

観光事業も漸く重要産業として認識されつつある時でもあり、全国緑丘人との連絡をとっておくことは観光事業関係者としても有益なことでありましようし、また緑丘誌に観光関係広告を掲載されることは広告効果も大きいと考えられますので、敢えて一筆とつた次第です。

「伴房次郎先生の書翰と追憶の刊行」に関連しての一つの考え方

さらに一方私は、昭和三十八年十二月六日付「大阪中央」の消印で、越崎宗一さん、大久保鹿式さん、小貫武さん連名のお手紙をもらいました。

(一) 越崎宗一さん等は昨三十八年十二月のお手紙で、伴先生の本はすでに資料もそろい、整理もほとんど完了しているとおっしゃるが、ほんとうはまだまだで編纂の仕事が進んでいないのではなかろうか。

(二) 越崎宗一さん等は「緑丘」を年六回発行することは、本業の外の私生活を犠牲しての大事業ですから、伴先生の本の編纂まで手を伸ばすことは無理な負担なのではなかろうか。

(三) 越崎宗一さん等のあつせんにもかかわらず、本の申込数が案外少なくいわゆる一印刷単位以上に達しておらず、一般市販のできぬ特殊な

「緑丘」第四十号を拝見しますと、「小林多喜二特集」や「苦米地英俊先生特集」の二つの計画もあるようです。しかし、二つの計画は多少先に延ばしても、まず伴先生の特集号を出すべきです。紙面の関係もあり先生の書翰はある程度割愛しても、多くの方々の書かれた追憶録はできるだけ収録し、もし一回で載せきれなかったら「続・特集号」を出してもいいではありませんか。

稲垣芳雄 (大六)

母校第二代校長伴房次郎先生が他界されたのは昭和三十一年十一月十九日ですから、早くも満八年余の歳月が流れたことになりました。

「緑丘」誌は、昭和三十三年十一月十日発行の第四号を「伴校長逝いて三年」と銘うって、亡き先生の御嗣子素彦さんと、先生方や、教え子諸兄の追憶記を載せています。

越えて昭和三十六年一月二十日発行の第十七号誌上に、昭和十一年緑丘卒の越崎清二さんが、「伴先生書翰集刊行についての一私案」という一つの提案を寄せておられます。

そして、昭和三十六年六月二十日発行の第十九号誌上に、「伴先生書翰集発刊に踏み切る、申込受付開始」の記事が初めて掲載されました。

それから約二年後の昭和三十八年五月二十五日発行の第三十一号誌に「限定版・伴房次郎先生の書翰と追憶、原稿整理に入る」との記事が載りました。

いま私の推測しているのは次のようなことです。

(一) 墓目さんにとって、「緑丘」を年六回発行することは、本業の外の私生活を犠牲しての大事業ですから、伴先生の本の編纂まで手を伸ばすことは無理な負担なのではなかろうか。

(二) 越崎宗一さん等は「緑丘」を年六回発行することは、本業の外の私生活を犠牲しての大事業ですから、伴先生の本の編纂まで手を伸ばすことは無理な負担なのではなかろうか。

(三) 越崎宗一さん等のあつせんにもかかわらず、本の申込数が案外少なくいわゆる一印刷単位以上に達しておらず、一般市販のできぬ特殊な

性格を持った本として予約による段階に達していないのでなかろうか。かりに出版するとしても、一部当りの実費が相当高くつくのでなかろうか。

4

以上のような私の推量を前提として、これから私の考え方をのべるわけです。一つの提案です。

しかし、「緑丘」誌上にこの一年間、伴先生の本のことが一向載っていないにしても、すでに刊行のことが最終的に決定し明四十年あたりこの本の発行が実現するのであればこの提言は全く不必要になりますから、あっさり撤回いたします。

万一、単行本として「伴先生の書翰と追憶」を刊行することが、いろいろな事情で困難であるならば、その方法をあきらめ、その代りとして「緑丘」誌を活用し、かつて「浜林生之助先生追憶特集号」を出したように、なるべく早い機会に、「伴房次郎先生追憶特集号」を発行することに計画を変更されたらどうかと思っております。



全国初の中国・四国大会

加茂学長夫妻を迎えて

39.11. 7~8 音戸にて



中野広島支部長挨拶

（船頭可愛いや 音戸の瀬戸で 一丈五尺の 櫓がしわる）
 の民謡で名高いこの音戸は今から八百年前、平清盛が切り開いたと伝えられており、急流と渦潮は美しく、ロマンチックな源平時代の物語を数多く秘めている。

この名峽「音戸の瀬戸」を緑丘会中国四国大会の地と定めたのは広島支部長中野清一氏（広島大学）と音戸商工会大村武夫氏（昭二）との交渉から始まった。

一昨年秋以来広島、岡山県両支部で準備を進めていた中国、四国大会が昭和三十九年十一月七日午後五時半から翌日八日の正午まで音戸町戸田旅館で、全国初のブロック会議がもたれ、加茂学長夫妻、一橋大学大平善悟教授（大一五）も岡山で開催された学会への出席から急遽この太会に参加され、七日夕べから八日午前二時までの歓談が続いたことは、島根、鳥取、広島、岡山、四国の緑丘人にとって誠に有意義な大会であったと交々語っている。

午後六時、すでに遠く瀬戸内海を船で参加された香川県代表村上貞光氏（大一五）愛媛代表、鳥取、島根両県からも若林、大隅、山田氏が、

神戸支部を代表して幹事長本間広松氏（昭八）大阪支部を代表して副支部長豊目英三氏（昭一一）も参加、一同満場に響きわたる小樽商大校歌の中を賛席する。

鈴木恵三広島幹事長（昭九）より開会の辞があり、続いて中野広島支部長がこの大会をもたれた意義とその経過について説明、併せてこの大会を祝福して寄贈されたサッポロビール、アサヒビール、合同酒精（ブランドール）に対し感謝の意を表しこの大会準備のため格別の協力された小林平治郎、西原寛、赤谷良士の三氏にも感謝の辞を述べられた。

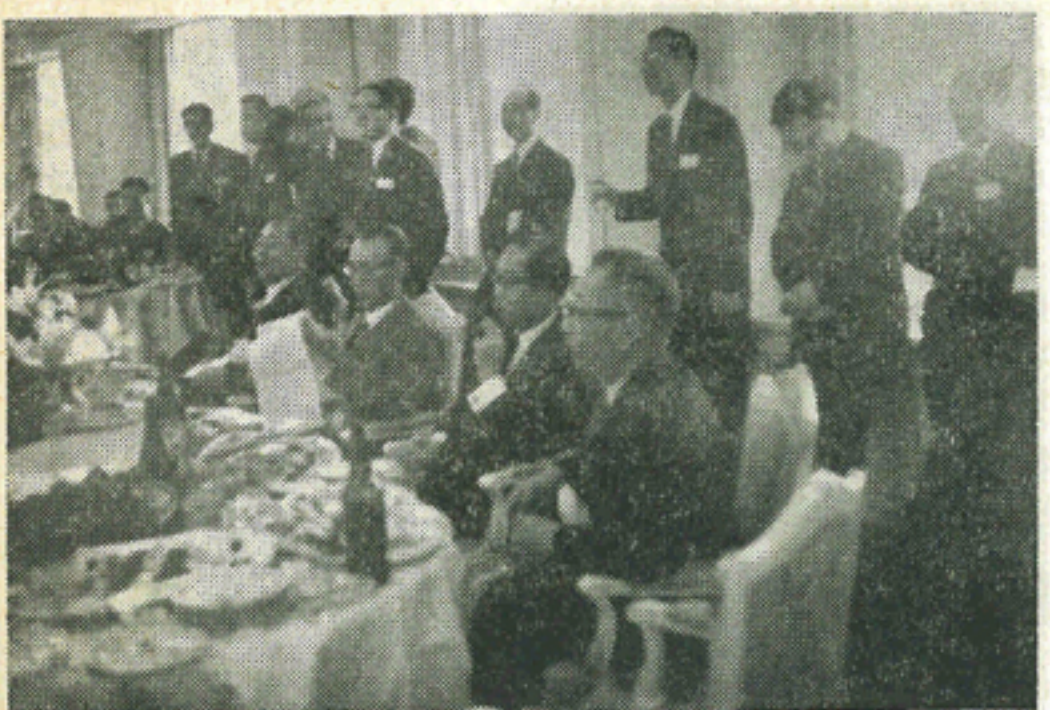
加茂学長より母校の近況報告があった、次いで幹事長から村岡（鳥取）紀野（東京）神田（東京）三氏の祝電を披露する。満場起立して乾杯、懇親会に入った。

自己紹介が鳥取東郷温泉鶴之湯社長山田善之助氏（昭九）からPRをかねて口火を切られた。自己紹介の秀逸オールイングリッシュ、イントロデュースがあった。これも全国初めての試みであろう。その名は大正六年卒安保弁一氏である。岡山支部幹事長尾崎央男氏の自己紹介は戦場物語りが入って一同抱腹絶倒。加茂学長夫人の挨拶も丁寧な御礼が出て会場一時シニリ。

瀬戸内海は魚類の名所である。タイあり、エビあり。特にタイの生造りはこの観光地の名物であるが、この日は特に緑丘人のため、大村氏の御好意で用意された目の下四〇センチの大鯛が大皿に盛られて並べられ、目が動いている。箸をつけると身が動く、味はよきことむべなるか



乾杯にはじまった中国四国大会



選したわたしの立ち直りもかなりおくれたであろう。わたしは、二十九年に母校である東京教育大文学部に転じて、専攻の和歌史や歌論史や中世文学一般に關した講義を担当するようになり、すすめられて「新古今時代の研究」で学位も得たが、その学位論文の基礎は、緑丘に在任していた十二年——応召期間をさしひいたら正味十年の間、年齢でいうと、四十歳までの十年ぐらゐの間、だいたい固められていたのである。それも、緑丘出身のだからもつき動かしている、目に見えないが強力なエネルギーにつき動かされながら……。

文学の小林多喜二氏や伊藤整氏が緑丘の出身であることはあまりにもよく知られている。今日、音楽界で活躍している唯是震一君が同じく緑丘出身であることは、ご存知ない人が多いかもしれない。かれは、戦後

の卒業生であるが、はやくから宮城流の琴に志し、緑丘卒業後、東京芸大に進み、芸大を卒業して在来中にカーネギーホールで演奏したこともあると聞いている。もうひとり、わたしの知っている変わり種を紹介しておこう。それは今栄蔵君である。かれは、緑丘時代、近世国学者の研究などに興味をいだいていたが、戦後、北大に法文学部ができたに及んで、そこに入学して国文学を専攻し、今日では、俳諧文学研究者として、りっぱに活躍している。いま、すぐに思いつくこういつた人々を数えあげて行つてみるにつけても、緑丘には、そこにひとたび身を置いただけでも、それぞれの素質に応じて、ふるいに立てさせ、創造的進歩力を燃え立てさせる独特なエネルギーのあることを思わないわけにはゆかなくなるのである。古い歴史のあるところには、みなそれぞれの伝統が生まれており、これも「緑丘の伝統の力」ということばに置き換えられるものであるにはちがいないが、どうも不思議なエネルギーである。

昨年の九月、北大で、全国大学国語国文学会と和歌文学会との合同の学会が開かれ、わたしも、関係の深い学会なので、それに出席し、その機会に、九年ぶりで緑丘を訪問した。寮の模様などはたいへん変わっていたし有名な「地獄坂」も、西側に家が立ちならんで、その名が昔の実感からは遠ざかったものになっているのであろうと想像されたが、多くはわたしの在任していた十年前のまま。緑が丘は変わらない姿で、暖かく学園をいだいていたし、校庭の

はずれから眺めた小樽湾も、同じように、あの深く哲学的な色をたたくていた。さすがになつかしかった。しかし、その一方で、あまりの意外さに「ハッ」とさせられたことがある。それは、緑丘がこんなに小じんまりした学園であつたか、ということであつた。無理もない。わたしがその後十年ばかり生活してきていゝる東京は、ますますふくれあがつてゆくマンモス都市である。東京では大学もすでにマンモス化している。といったところからひよいと脱出して行つた。だれの目にも、一瞬、その小ささが感じられなかつたらむしろおかしいであろう……

次号予告

小林多喜二特集

- 執筆者（不同順）
- 伊藤 整、水野 亀清
 - 武田 暹、島田 正策
 - 片岡 亮一、野口 七之助
 - 大熊 信行、越 崎 宗一
 - 西川 正己、浜 林 正夫
 - 久 木 久一、中野 清一
 - 平 本 英夫、服 部 兵 吾
 - 佐 藤 信 雄、糸 魚 川 祐 三 郎

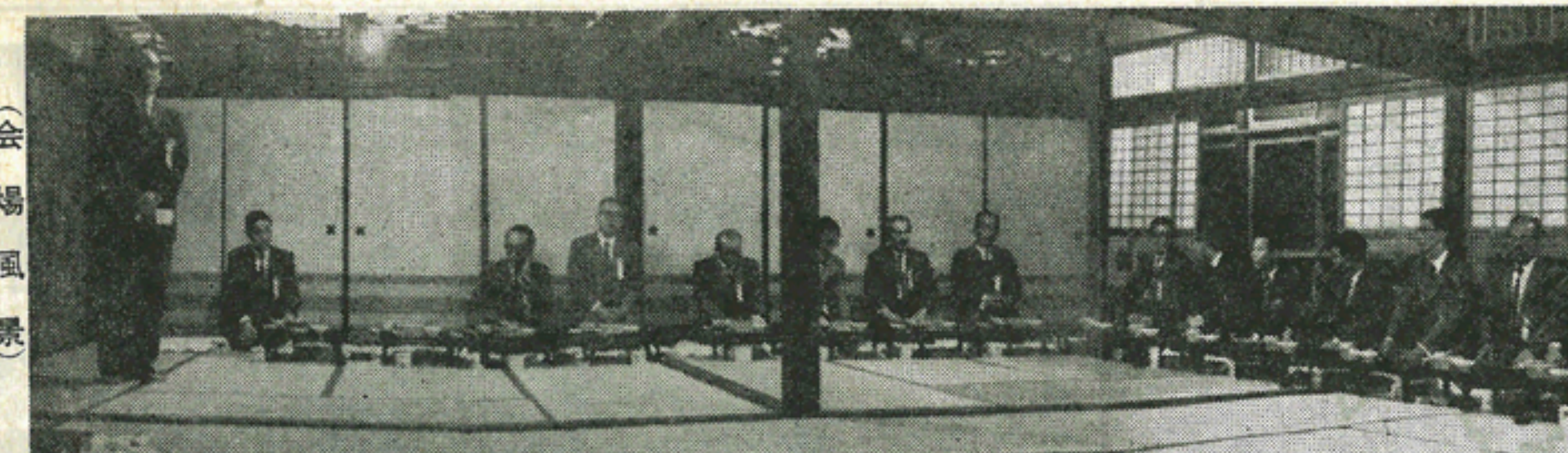
緑丘といふところは、そういうところである。にもかかわらず、わたしは、緑丘に在任していた間はもちろん、その後東京の大学で住み慣れた今日まで、緑丘を小さいと感じたことはいちどもない。なぜである。いまは、わたしに、その理由がはつきり考えられる。それは、ほかならぬ「緑丘のエネルギー」の迫力によるのである。もつとも、そのエネルギーの生まれてきた過程を正確に解明しようとするところでもおそらく、わたしなどの手に負えるものではないであろう。

（筆者は、東京教育大学文学部助教 授、文学博士）

- 執筆予定者
- 桜井 長徳、福 田 勇一 郎
 - 飯 坂 久 男、高 崎 徹
 - 蒔 田 栄 一、高 桑 市 郎
 - 田 辺 耕 一 郎、和 田 克 己
 - 清 水 撰 三、大 島 晃
 - 南 亮 三 郎、加 茂 儀 一
 - 大 野 純 一
 - 平 林 たい子、板 垣 直 子
 - 江 口 漢、中 野 重 治
 - 高 浜 年 尾

など云いたい。
お酒は横山大観好んで飲んだ加茂

鶴や酔心である。中国山脈や瀬戸内海を越えて集まった緑丘人は、忽ちにして若き日の思い出話に話題が集中した。



(会場風景)

大部分の緑丘人が宿泊に決ったのか話も尽きず、音戸の美人も話の間を縫うように三味をひいた。幹事の用意された学園讃歌集をグループ毎に唄い出し、ほんとうに楽しい一夕である。席を隣りに移動開始。続く話は朝の二時までは夜も更けて音戸の渦を乗り切る船の音がボンボンとひびき漁火も点々と見える。母校を語る学長、学長をほめたたえる大平善悟教授、五〇周年記念祭の思い出を語るなど、遠く離れて学長と歓談の機会のない緑丘人はビールと酌酒をくみ交わし、何時になつたら続宴は終るのだから。酒もろま

いが、さあ食事だと、この辺で切り上げて寝についた。翌朝起床八時、十一月の音戸の朝は寒かった。戸を開けるとカラリと晴れた空にくっきりと音戸大橋が姿を現わす。

生簀からエビや大鯛をすくい上げてる光景が、この宿舎戸田屋の部屋から真下に見える。朝食が終つて緑丘編集部藤田氏持参の「丘と海と白い雲」に聞き入る。目頭が熱くなると、遠く彼方の思い出にシンミリとなつて聞き入る。然しよかつた。この録音を聞いたことは。

意義ある中国、四国大会は、かくして二日のコースを終つた。再会を期しつつ別れを惜しみながら交々車の人となる。次の大会は四国、山陰の声も出た。(幹事記)

中国・四国

大会を終って

中野 清 一

(広島支部長)

中国から四国にかけての、ブロック集會を持とうという声があがったのは、三十八年十月の、山口県・岡山県からの参加者をも交えての広島県の総会の席上であつた。だから今度の大会までにおよそ一年の準備期間があつたと言えらぶ。しかし実質的には一年間を充実した準備活動で過したとは言い切れない。その責任は一に私にあつた。岡山の村岡英一君や、広島島の紀野重仁君のように熱心な推進者であつた有力者が、大会を前にして他地方に栄転という事情もあつたものの、こ

のお二人が最後の最後まで遠くから励まし声をかけて下さつたのだから、責任はやはり私にある。岡山の猪木金人君や尾崎央男君など早くから緻密な準備を、と何度も声をかけてくれた。それに充分対応し得なかつたのだから私の罪もまた深い。しかし、それにしても、はるばる小樽から学長先生御夫妻が御参会して下さつた。緑丘御出身ではあらぬ先生の、緑丘とあくまで一体になつた頭が下る思ひ一杯である。同期の大平善悟教授も、岡山での学会の疲れを厭もせず欣然としてあの童顔を見せて下さつた。大阪の藤田副支部長、神戸の本間幹事長の御来会もまさに錦上に華をかざつて下さつた。準備不足の申わけ無さもさることながら、初めての大胆なブロック集會がもし成功したものだったとしたら、それは一つには、この五人の方々の御厚情による。

松山から、香川から、島根から、鳥取からも、道を遠しとせずして広島県の一隅に何人かの先輩、同輩、後輩が集つて下さつた。みんな、曾て学んだ緑丘への思い出一つにつながつて来会されたのである。充実したプログラムこそ用意してなかつたが、小樽を遠く離れたこの地域に、緑丘今ここに集い、緑丘につながる不思議な縁を温め合う。これだけでも第一回の試みは、良かった、良かった、と私は、傍ら自責しつつも、自ら慰めてもいる。第一回は足場に、ブロック大会が年は年を追うて盛んになっていくように心から祈つてやまぬ。

中国 四国大会に出席して

加茂 儀一

(小樽商大学長)



広島大学の中野教授から、中国地方の緑丘総会を秋頃にひらくから出席してほしい、という招待を大前に頂いていた。小樽に来てから七年になるが、他の地区の緑丘会員には殆んど御眼にかかつていないのに、中国地方の会員だけはまだ面接の光栄に浴していないので、私はその日を心待ちにしていた。ことに今度は地方の同窓会へ家内も招かれたのは初めてのことであったので、北海道から広島までの長い旅路も苦にしないで考えていた。

そして待ちに待った開催日の十一月七、八日が迫つたので、私らは急遽北上、その足で初めて新幹線に乗つた。神戸以西は私としても終戦後初めてであり、この前に呉に行つたのは二十二年も前のことであつた。車中、戦争の漸くしきれつ化しつあつたときのことを思い浮べ、今の平和な田園の風景とくらべていささ

か感慨を催した。岡山駅では、待ち合わせたように大平善悟教授が同車され、また車中では思いがけなく札幌の富樫長吉さん御夫婦に出会つた。別府へ行かれる途中のことであつたが、こんなところで同窓が出会ふのも何かの奇縁であると思わざるを得なかつた。広島では中野さん御夫妻の御出迎をうけて、広島大学の御好意で今日の会場の音戸へ車で向う。途中、呉を通過したが、二十二年前と比較して、広島湾一帯が工業化されて非常に活気を呈しているのに驚いた。呉造船所も立派に立直つて居るのは何よりも心強い思ひであつた。音戸大橋のたもとにある古からの料亭が会場で、この地の顔役になつて居る商工会の指導者大村(昭二)さんの御世話によるとのことであつた。母校から遠く離れた音戸で緑丘会員が堂々と仕事をされていることも嬉しいニュースであつた。

会場の料亭は丁度音戸の瀬戸を前にした景勝の地で、夕やみの中を小蒸気が盛んに往来していた。会場の参加者は、地元広島、呉はもちろんで、岡山、島根、鳥取、四国在住の会員で、東京からは大平君、大阪からは墓目さん、神戸からは本間さんも来会されたが、一同は卒業後初めて顔合わせの人が多く、それだけに思い出話が尽きず、自己紹介が終つてから墓目さん持参の緑丘出身の戦没学生の記録テープの紹介があり、一同涙の思いで聞いた。参加者は全部で三十五名、大正六年出の安保さんは一番の年長者であるが頭髪は黒く、一本も歯が欠けていないという壮健ぶり、小樽出身の誇りをもって英語で自己紹介されて、みんなどきどきを抜かれた。島根から来会された方々もおそらく緑丘会に出られたのは珍らしかつたようであるが、大変なつかしい様子であつた。このように、遠いところでは緑丘会も仲々開かれなないので、みな母校の思い出に花を咲かせ、朝の二時頃まで話がつづいた。

いづれ別に出席者の氏名その他が紹介されると思うが、ここにきて私が驚いたのは、母校を遠く離れ、緑丘の地盤のない処で緑丘会員が立派に活躍されていることであつた。大変な苦勞があつたことと思うが、少ないだけにみな頑張つて今の地位をきづかれたと承つて、私もこうした人々に感謝をせずにはいられなかつた。それにつけても新しい卒業生が将来中国地方へもどしどし進出してこれら先輩の折角つにつけてくれた地盤を固めてゆかなくてはならないことを痛感した。家内もこうした席に初めてのことであつたが、同窓生諸君のなごやかな会合に、とても嬉しい思ひをさせて頂いたことを感謝している。



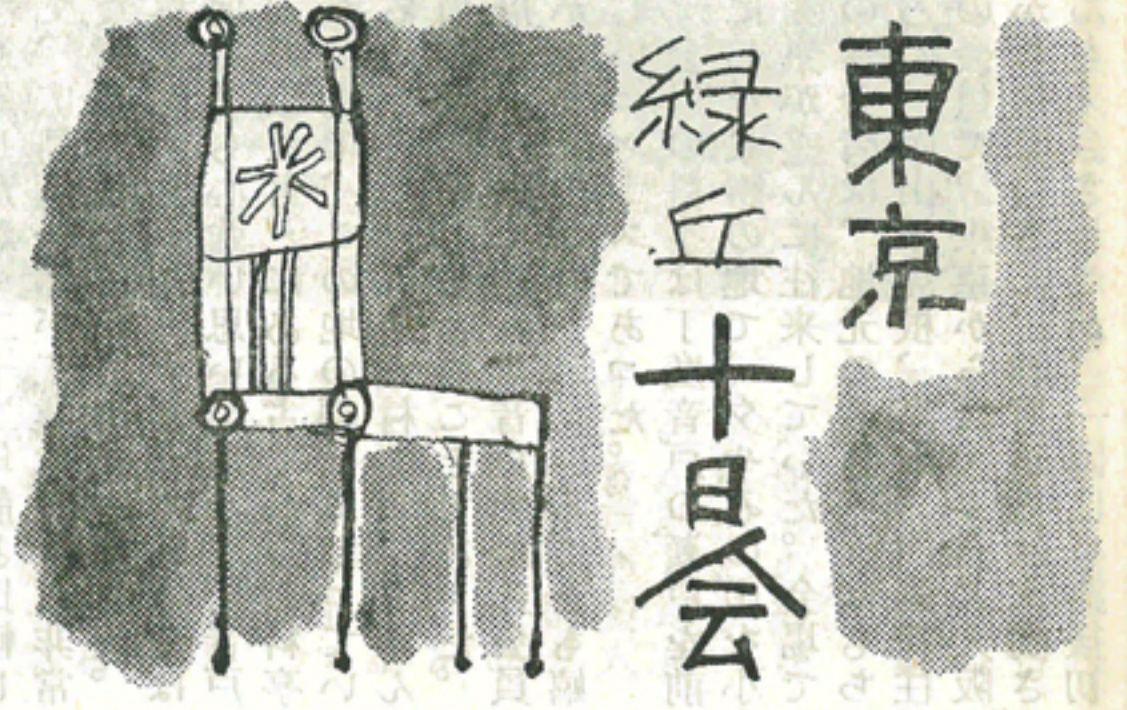
(戦没学生の録音を聞く)

翌日みんなと再会を約して分れ、私は東洋工業管理課長小林さん(昭一六)の案内で同工場の外郭を見

特の考案によるゴルフボールの工場
を見て頂いた。同氏のゴルフボー
ルの輸出されており、その名も母校
の緑丘の名をとって「グリーン・ヒ
ル」といい、児島市でも同窓の一人
が経済界の主役をつとめておられる
ことを発見して、さすが緑丘人だと
いう心強さを感じた。

翌日同氏に岡山案内をして頂いて
分け、途中京都に立寄って日本新薬
の森下さんの御世話をうけ、京都を
見て帰京した。今度の旅行は、今ま
で私が忘れていた大事なものを見
つけたような感じで、緑丘に対する私
の心も大きくさらに開かれたことは
大きい収穫であった。種々な人々に
私らは大変御世話になったことをこ
こに改めて御礼申し上げる。もっと
詳しく書くべきだが紙面の都合もあ
るのでこの辺で擲筆する。有難う。

- 当日出席者
- 来賓 加茂儀一学長夫妻、大平善
梧(大一一五)、本間広松(昭八)
墓目英三(昭一一)
- (広島・岡山地区)
- (大六) 安保弁一(大一一五) 西山
正雄、中野清一(昭二) 友沢和一
郎、大村武夫(昭八) 猪木金人
(昭九) 尾崎史男、鈴木惠三、高
田正明(昭一〇) 早川清、木下弥
治衛、前山龍男(昭一六) 藤野栄
吉、内海唯利、栗田元紀、小林平
治郎、田村充(昭一七) 平木重己
(昭三〇) 西原寛(昭三六) 赤谷
良士
- (鳥取・島根地区)
- (大一一) 若林周五郎(昭七) 大
隅弘(昭九) 山田善之助
- (四国地区)
- (大一一五) 川上貞光(昭一一) 白
濁良造



第一三一回

十一月例会

日時 十一月十日午後五時半
場所 東京ステーションホテル
テーマ「中期経済計画について」
大来 佐武郎氏

何時までもオリンピックムードで
もあるまい、と大正十五年卒業生の
当番幹事はいささか堅いきらいもあ
るが、前経済企画庁総合計画局長で
現在同庁の参与をしておられる大来
氏を傾けて前記のお話を伺うこと
にした。同氏は国民所得倍増計画を纏
められた方で、今回また「中期経済

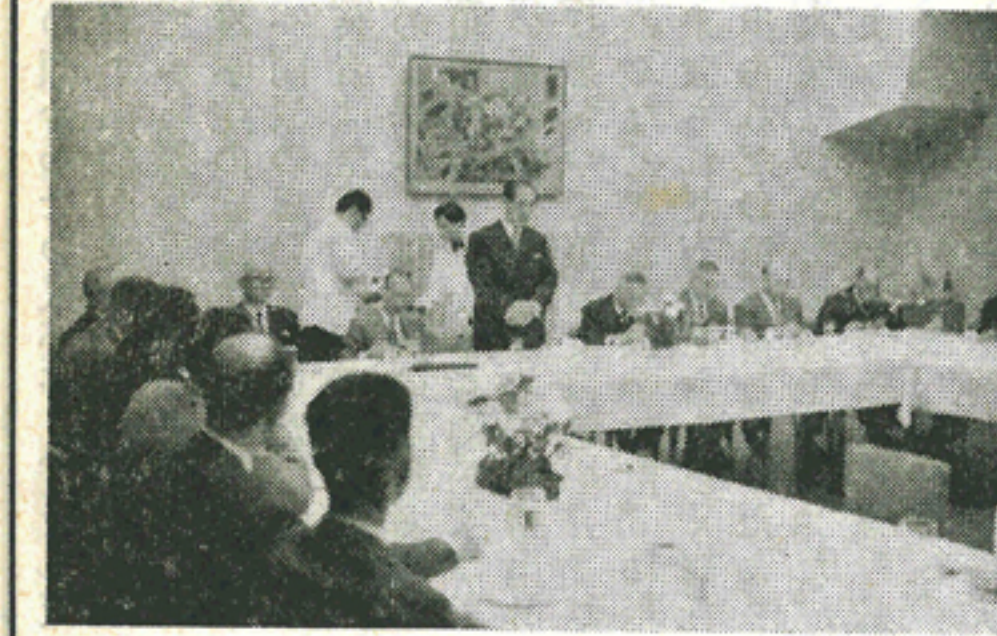
計画」の主査に当られたベテランで
あります。

講演のうち特に力説されたのは、
この計画は二年位で再検討し、更に
次の五ヶ年計画を樹てる建前であり
従って昨年中に中期経済計画を纏め
る予定であったが単にアフターケア
に終り本年に至った次第である。

この計画の主たる目的は五ヶ年先
の見通しということより、寧ろ現在の
の政策に役立つ(例えばヒズミの是
正など)一つの物指であるというこ
とでした。

国家予算樹立の基盤となる重要な
計画のお話であり、約一時間に亘る
講演を一同謹聴しました。

この日若干薄ら寒く、参会者が意
外に少ないのは遺憾でしたが、それ



- 出席者
- 大来佐武郎、苦米地先生
加茂学長
- 来賓 宮崎省三
上村甚四郎
大 四 吉岡 義二、板倉 誠
大 九 石川 一
大 二 谷 弥太郎、中尾 晃
大 三 杉田庚子郎
大 四 津久井七雄、竹内 隆
大 五 西野嘉一郎、奥原 貞三
昭 二 神田 正英
昭 三 手島恒二郎、西村 保
昭 四 根田 順治、道善 宇内
昭 一 宮袋 虎雄
昭 一 齊藤 誠夫
昭 一 酒井 誠、武岡 達良
昭 二 矢野 正郎
昭 一 山本 俊雄
昭 一 三

それ歓談し八時過ぎ散会しました。

十二月例会

第一三二回

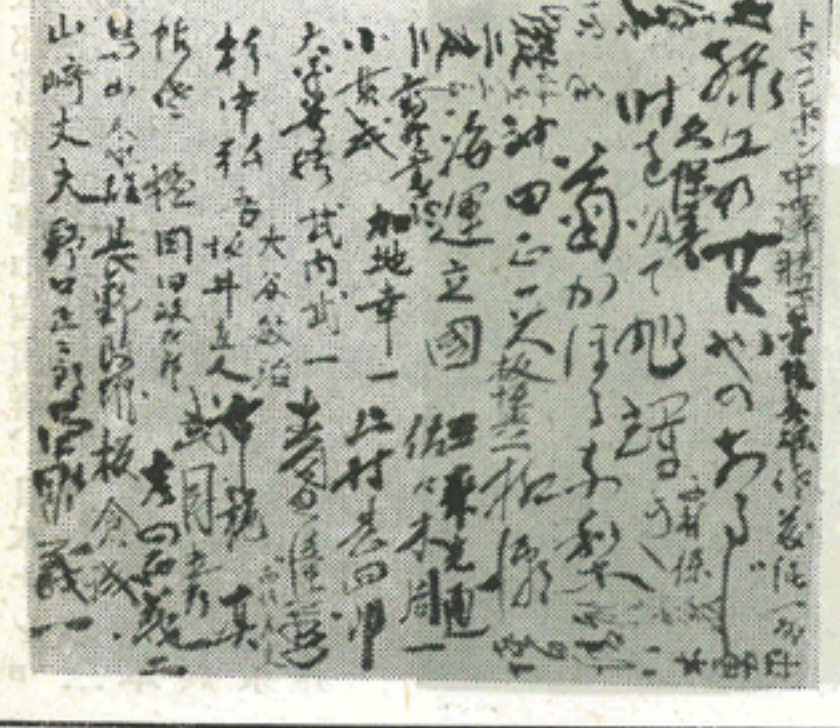
昭和二年卒業の当番幹事が、十一
月中旬千代田火災保険株式会
集り、掲題例会は恩師苦米地先生の
勲二等旭日重光章授与の御祝いを兼
ねて忘年懇親会を催すことに決めて
会員諸氏に御案内いたしましたところ、
年末多端の折にもかかわらず多数の
御参会を得て賑々しく開催するこ
とができた。

十二月十日午後五時半
所 フェアモントホテル
開宴に先立ち佐々木理事長から、
先生のこのたびの御栄誉について御
祝詞が述べられ、続いて先生の御挨
拶があった。

先生は今度の授章は国会議員とし
ての功績で、拝授いたしました次第が
これも偏見に母校同窓の皆様のお蔭
であるとして、心から感謝しておら
れました。続いて上村支部長から緑
丘会支部として先生のこの栄誉を記
念して掛時計を御贈呈申し上げ、時
計を選んだことについては、この時
計の如く何時までも正確にコツコツ
と時を刻むように、先生の御健康と
御幸福を念願する意味である、と御
挨拶があり、柳瀬先輩の音頭で先生
の御長寿と御幸福のため乾杯し宴に
入る。

パーティー形式であるため、会員
それぞれ流動的に歓談し、極めて楽
しい空気の内にこのめでたい祝賀会
を終りました。

- 出席者
- 苦米地先生御夫妻
大 三 柳瀬伊蔵
大 四 佐々木周一、上村甚四郎
大 五 青田滝蔵
大 七 草野義一
大 八 野尻善次郎
大 九 吉岡義二、板倉誠、布施真
大 十 大谷敏治
大 一 一 帖佐猛
大 二 二 加地幸一
大 三 三 大平善梧、神田正英
大 四 四 手島恒二郎、小貫武、武内
大 五 五 武一、西村保、岡田政次郎、坂
大 六 六 井直人、山崎文夫、杉中弘吾、
大 七 七 陸田清、中沢勝平、鳥山泰雄、
大 八 八 長野政雄、從二建二
大 九 九 昭三 武岡嘉一、佐藤純一郎、久
大 一 一 保亮、三森光通
大 二 二 昭四 板垣与一
大 三 三 昭六 西堀房夫
大 四 四 昭八 能沢正義、八木勇平
大 五 五 昭十 野口正二郎
大 六 六 昭十三 金垣英雄、高野憲一郎



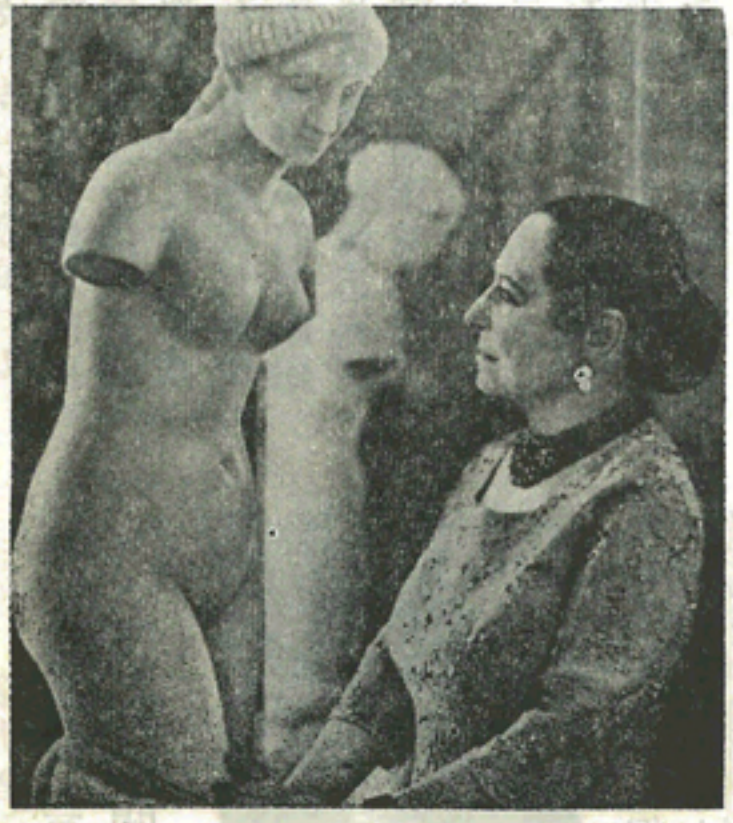
HR Helena Rubinstein

新会社設立の御挨拶

私は、世界的美容界に君臨するヘレナ・ルビンスタイン女史
と数年に亘って親しく交際してまいりましたが、このたび女史
と提携し、日本に合弁会社を設立し、その社長を勤めること
になりました。ヘレナ・ルビンスタイン化粧品は、世界で最も格
調の高い化粧品として、ヨーロッパの王室、欧米の社交界から
絶対的な信頼をえております。一度でも海外に行かれた方なら
知らぬ人のない、伝統と名声につつまれた化粧品です。日本発
売にあたっては、名品の香りを失わないように原料はフランス
から輸入し、製造はスイス人の技師が担当しております。

みなさまの美しい奥様、お嬢さまにより一層美しくなってい
ただくために、お役に立つことを心から願っております。まず
関東地区から発売を始めました。

東京都港区芝西久保桜川町6番地
ヘレナ・ルビンスタイン株式会社
社長 加地 幸一 (大12卒)



緑	余
丘	話

西野嘉一郎氏(大正15年卒)の藍綬褒章 記念祝賀会盛大に開催される



十一月十九日
通産大臣から藍
綬褒章授与され
た、芝浦製作所
副社長西野嘉一
郎、日本生産性

本部常務理事中西寅雄、日本ナショナル金銭登録機相談役後藤達也の三氏を祝う受章祝賀会が、生産性本部、全産連など、関係十二団体の共催で、二十四日、東京永田町の東京ヒルトンホテルに財界、学界、官界

をはじめ、関係者五百余名が出席して盛大に開かれた。

この参加者の中には苦米地英俊氏の外、佐々木周一同窓会会長、進藤孝一氏、近藤徳弥氏、小貫武氏等多数緑丘同窓生や石田国鉄総裁、平田開発銀行総裁、十河信二前国鉄総裁、公正取引委員会委員長渡辺喜久造氏、産経新聞副社長稲葉秀三氏、太田哲三氏等多くの知名の士の顔も見えていた。

まず其催団体を代表して日本商工会議所会長兼日本生産性本部会長足立正氏が、受章三氏が経営管理技術の指導、普及を通して産業界ならびに商業界の発展に大きく貢献してきた功績をたたえる挨拶があり、参会者からあらしのような拍手が送られた。次いで日本能率協会会長森川覚三氏の乾杯があり、つづいて受章三氏が謝辞を述べたが、西野氏は、「今回の受章は一つに本日御出席の皆様のおかげです。特に本日御出席の太田哲三先生、黒沢清先生、野田信夫先生等の御世話で今から三十年前の昭和九年「事業財政分析観察法」という経営分析の書物を出版いたしましたことが起因となり、以来三十年間経営管理技術の研究をつづけてまいりました次第で、もしこの出版がなかったならば、また今日までたゆまざる皆様の御指導がなかったならば、今日のこの栄誉もなかったことと存じます」とあいさつした。

このあと成蹊大学長野田信夫氏、全産連会長荒木東一郎氏など関係者が祝辞をおくった。

スルメの英雄

緑丘会神戸支部幹事長
本間広松氏(昭八)



低物政策を提唱した佐藤栄作氏が総理に就任してから一カ月目、NHKテレビニュースは昨年十二月初頭、歳末を控えて海産物特にノリ、スルメ(韓国からの輸入によって)価格の上昇は止まり、むしろ下がることを報じた。この下落作戦の陰に本間広松氏(昭八)神戸海産物同業組合専務理事がいてる。

昨年のイカ漁の不振はスルメの先物を暴騰させた。イカの加工業者はこぞってその先行き不安を恐るれ、韓国からの輸入によって加工原料の増加と価格の下落を願うより方法はなかった。この問題について政府との交渉依頼を持ちこまれたのは本間専務理事である。一度引受けると後に引かぬ彼の性質で、業界のために立ち上った。そして政府との輸入交渉に当たったのである。上京すること、十二月だけで三回、遂に十二月も半ば三億六千万円の輸入の交渉成立までこぎつけた。すなわち一億数千万円の交渉からはじまって遂に三億六千万円の水産庁との交渉を成立させたのである。

この問題は単に関西のみの問題でなく、北海道、関東の業者もこの、

成功を見て配分問題に割込作戦をはじめ、今や全国問題にまで進展してきたという。

水産業界では本間広松氏(緑丘会神戸支部幹事長)をスルメの英雄と称している。奮戦記を披露する。

拝啓 晩秋の候益々御清祥に涉らせられ大慶に存じ上げます。

今般図らずも叙勲の恩典に浴しましたところ早速御懇篤なる御祝詞を賜りまして御芳志忝く謹んで厚く御礼申し上げます。

満八十歳を目前にいたし幸に未だ老衰を覚えません。偏に皆様の多年にわたる御高誼御鞭撻の賜物と深く感謝いたして居ります。

何卒今後とも変わらぬ御温情をもって御記憶下さいませよう御願ひ申し上げます。

向寒の砌御同様一層の御自愛を御祈り申し上げます。

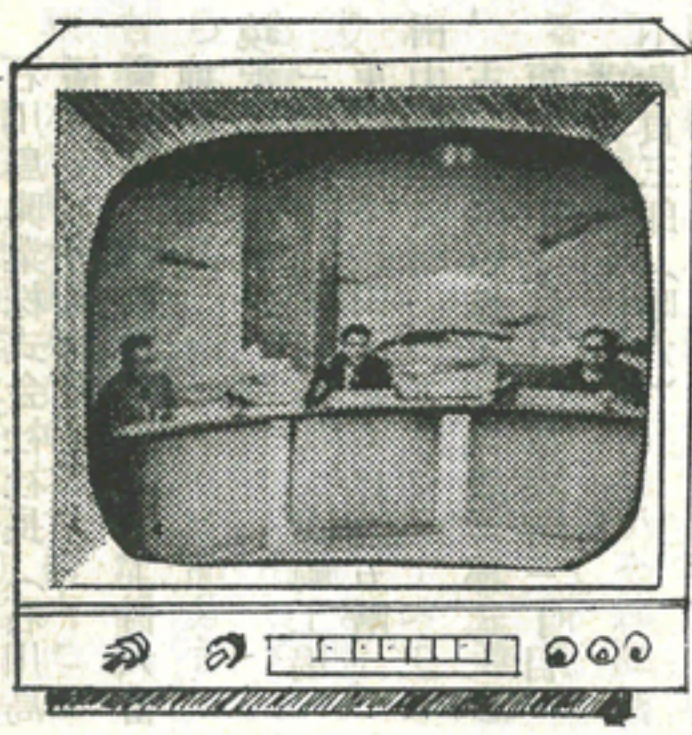
十一月十七日

苦米地 英俊

NHK教育テレビで 教養特集

転機に立つ国連 国連と中国問題

大平善梧氏(大15)活躍



十二月九日NHK教育テレビ教養特集「転機に立つ国連、国連と中国問題」に大平善梧氏(大15)「一橋大学教授は蠟山正道氏(評論家)と共に衛藤藩吉東大助教授の司会で一時間にわたって次の国連総会において中共の国連加盟の見透しについて語った。中共承認の票読み如何すなわちアフリカの新興諸国とフランスの腰の入れ方如何により一、二票の差を以て決定されるのではない。ソ聯の態度については中ソ論争について特に熱心だといわれぬし、今の路線を続けて行くであろう。

一つの中国か二つの中国か、はたまた一つの台湾一つの中共について法的三つの解釈を挙げ、国際法的には国際関係国の所有という解釈もできるが(カイロ宣言により)やはり蒋介石の台湾と見られるのではないだろうか。

国連に中共が加盟に決定すれば、日本の態度はどうなるのか、大平氏は語る。国際情勢の中において満州事変、支那事変、太平洋戦争を通じて絶えず中国大陸と接触しながら失敗をきたした。この失敗が今になっても少しも生かされておらぬと力説し今の日本政府のあいまいな態度には疑問を残してこの番組を終る。

会津「御薬園」に建った

歌人与謝野晶子の歌碑

小野寺佐氏(昭11)の苦心稔って

会津若松を訪ねた人は観光バスで名所旧蹟を案内され、御薬園を見る。四囲十五方里の借景園であり、廻遊式庭園でもある。鶴ヶ城を築いた後この地葉泉が湧いたともいわれ享保年間に薬用の朝鮮人參を試殖したので「御薬園」と称せられるようになったともいわれている。



昭和二十八年十月から一般に公開されるようになったのであるが、昭和十一年卒小野寺佐氏は歌人与謝野晶子のこの御薬園を詠んだ歌を大理石に刻み、自費を投じて建立した。この碑を建てるに当り、文部省の許可を得るため上京すること数度、ようやく許されて建立したとの事である。

秋風に荷葉うらがれ香を放つ
御薬園の池を廻れば 晶子

異動

芝梅太郎(昭九) 住友商事株式会社取締役
飯川益男(昭一三) 三井銀行渋谷支店長(名古屋駅前支店長)
高山貞一(昭一一) 三井銀行小樽支店長(刈谷支店長)
藤田利雄(昭九) 三井銀行日本橋支店長(人事課長)
町野正雄(昭六) 大運副社長(大阪商船三井船舶審議役)
紀野重仁(昭九) 住友金属工業株式会社(広島支店)
東京千代田区丸ノ内一丁目八番地 新住友ビル七階
東京(三二)二二二(大代表)
三崎嘉郎(昭一一) 三和銀行庶務部長(銀座支店長)
川口久治(昭一〇) 三和銀行札幌支店長(深川支店長)
西村保(昭一一) 日本製鋼所取締役日鋼商事社長(常務副連事業担当)
高橋 正彦(昭二六) 日本新薬特富山出張所長(札幌支店)
富山市北新町二丁目三番ノ三二 菅谷重平(大九) 関東特殊製鋼特相談役(会長)

栄転

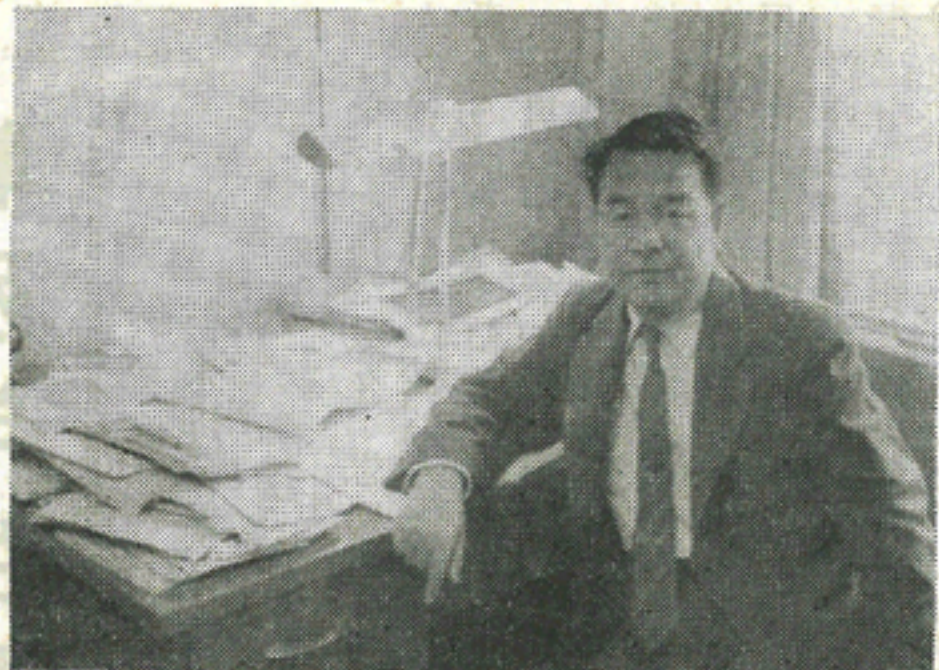
右田熊市(昭二) 石川島興業株式会社社長(石川島播磨重工常務取締役)
東京都日本橋区茅場町一丁目六番地の七
境沢保雄(昭一六前) 三菱セメント営業部(黒崎工場)
東京千代田区新丸ビル五階
田中三郎(昭一一) 古久根建設株式会社資材部
東京都中央区日本橋室町三丁目一丁目番地
小島貞三郎(昭六) 新菱冷熱工業株式会社東京本社工事部(大阪営業所)
矢部三郎(昭一一) 株式会社マコー事務取締役
名古屋市昭和区島西町二丁目一九番地
佐藤文四郎(昭八) 日本開発銀行検査部長(管理部長)
佐藤庄司(昭一五) 帝人株式会社繊維販売部長(人事部長)
木村実(昭一三) 東京芝浦電気株式会社工場経理部(同社横浜工場)
姫路市余部区上余部五〇 富永義(昭一三) 第一銀行目黒支店長(池袋支店長)
井出富太郎(昭一七) 石符開発株式会社(札幌市大通西四丁目道銀ビル)
会津幸雄(昭八) 日立造船社長室(総務部長)
東京千代田区丸ノ内二の二〇の一

西田英夫(大九五) 不二越総務、審査担当常務
高田甫(昭一五) 三洋電機機井植専務付(歌島工場長)
住所変更
野田政秋(昭一七) 東京都杉並区永福町四四八
木村実(昭一三) 兵庫県揖保郡太子町鶴三二〇 東芝斑鳩社宅二号
佐藤久市郎(大六) 東京都杉並区清水一丁目十一番一〇号
藤野戸憲也(昭一六) 東京目黒区中目黒一の八一四
日本興業中目黒寮E棟三十二号
水垣敏正(昭五) 芦屋市川西町七七 電話芦屋(3)〇一九四
井上保(大一一) 函館市時任町一五一
酒井康治(昭一九) 埼玉県所沢市北所秋津二一三
長谷川旭(昭一〇) 埼玉県草加市栄町七五〇番地
紀野重仁(昭九) 東京都世田谷区世田谷五丁目三〇五〇 住友千歳社一一四
宇佐美猪一郎(昭三四) 宝塚市平井字弓場十八番地
田中三郎(昭一一) 東京都目黒区自由ヶ丘二丁目四番十八号
内山三郎(昭一六後) 室蘭市清水町二五番地
青木慎吾(昭二二)

東京都練馬区上石井一丁目三二六番地
坂井喜一(昭一四) 東京都中野区松ヶ丘二の十二の二(地番変更)
安達静也(昭一九) 札幌市北四条西二十六丁目
石川秀雄(昭五) 東京都国分寺市国分寺一六九九一三〇
田代耕二(昭八) 西宮市羽衣町一〇八番地
稲川直孝(昭五) 東京都小金井市貫井南町三の五五
川口久治(昭一〇) 札幌市北三条西二十丁目
長谷川旭(昭一〇) 埼玉県草加市栄町七五〇番地
室谷邦雄(昭一三) 東京都中野区丸山一丁目四の八
横山栄二(昭六) 東京都港区三田一の一三四 大倉任一郎方(渡米留守宅)
林武(昭一一) 奈良市中山町九三七の一
明石重信(昭一一) 東京都三鷹市幸礼三鷹台団地三七棟二〇二号
桑島嘉助(昭二) 西宮市天道町七二の一甲子園ハイッ
堀池善弥(昭五) 池田市東市場町八八
安味貞和(昭一六) 東京都調布市飛田給町一六四番地
手塚寿一郎(昭三四) 池田市井口堂町三九七の二

僕の書齋

鎌田正三(昭一一)
(北大経済学部教授)



(北大理学部助教
鎌田正三(昭一一)氏撮影)

僕には書齋というべきものはない。なるほど机があり、その前に坐ると読書や書きものぐらいいはできる。しかし、ただ机があるというだけで、到底書齋などと呼べたものではない。僕の考えているのではない。知人のところにある書齋とはおよそ縁遠い。書齋とは引き出しのついた机とせめて一つぐらいの書棚は、どうしても最低の必要条件であろう。とくに「引き出しのついた机」とことわつたのは、必要なこまごましいもの出し入れは、坐つたままで用がたせなくては意味がないからである。現在の机はさるところからもちつた客机を転用したものであり、また大小を問わず書棚は一つもない。そんなわけであつて書齋はないといつたわけである。

僕の職業が教員なので、全然そういう場所がないといつたら、あるいは嘘になるかも知れない。強いていうなら勤務先の僕の個室がそれに当るかもしれない。だがその「研究室」という名のつく個室は、社会通念からいってどうしてもオフィスであり、勤務場所にすぎない。机も椅子も書棚も電気スタンドも、そしてさらにはその書物のかなりな部分までが僕の所有に属さない。ただ僕の狭小な寓居が勤務先の北大構内であり、自宅と研究室とが比較的距離

にあるため、わが家に書齋がなくともこんにちまで過してきたのである。

またその性質がものぐさなため、書棚一つさえなかつたことにも原因の一半はあるようだ。空間の多い書棚というものは、その空間を気にするとどうしてもそれを満たすための蒐集欲をよびおこすにちがいない。何によらず蒐集欲などというものは、もう大分以前から熱意を失つてしまつてゐるのに、空間を気にしだすと疲れるからである。したがつて僕の机のうえには雑然といろんなものが、整理されずに山積されておる有様である。いつかは人並みに書齋をもちたいとは思つてゐるものの、さてそれは一体いつのことか見当つかないのが現状である。しかし、それでも数年前までは、食事の済んだのちの食卓が勉強机であつたことを思えば、いくぶんかは昇格したようでもあり、あまり贅沢はいえないかもしれない。

「僕の書齋」執筆者を

この欄の執筆者をご推薦下さい。自薦、他薦いづれなりと構いません。

写真または図面(書齋平面図)も拝借し度いと存じます。

広告マツクと美術印刷・紙工品



株式会社 三優社

京都市下京区寺町通松原下ル
TEL. (35)0271・4950・7713
取締役社長 山村太兵衛 (昭一二)

是非一度皆様からの御用命を……特別奉仕

戦歿学生特集を読んで

苦米地 英 俊 (三代校長)

心を打たれた数々、思い出の多い人々、ほんとうに長い人生を深刻に考えさせられました。三頁の中野清一君の温い心にまずふれて嬉しく思うと同時に、満州各地で会合した写真が何枚もあるのなことごとく小樽に残してある自分に反省させられました。

頼んだ。その時米沢君をほめていたことをいまさら思い出します。通読してまだまだ書きたいことがあります、次の機会に譲りましょう。

大平 頼 母 (元教授)

国のため学園のため帰天の途につかれた諸兄等の御冥福を御祈り申し上げます。

谷 本 朋 次 (大八)

戦歿学生特集号本日有難拝受致しました。毎々誠に御立派な御編集ぶり全く敬服致します。

見ればただ何の苦もなき水鳥の足に暇なきこの思いかな

いろいろと御苦勞されていることを想像して心から敬意を表させていただいております。大変厚かましい申出で恐縮ですが何卒このうえとお骨折願います。小生と同じような思いで感謝しておられる方々が沢山おられることと思ひます。表紙苦米地先生の「飛潜有時唯従自然」の墨跡がほんとうに私の心を打ちました。

承れば学従出陣の際、別れに臨んで寄せ書の国旗に杜行の辞として先生がこの句をお認めになったそうです。

西川 正 己 (大一一)

「緑丘」戦歿学生特集号(四〇号)早速通読させて頂いた。早業が、二十年も前に戦死された同窓についてかきも広い範囲にまたたくも行き届いた心尽しの内容を感る見事な特集号をお出しになった。苦勞と誠意に心から敬意を表します。皆さんも松尾さんもちょうどあの当時の校長、教授として本誌上に名を連ねていられるのも嬉しく中野君の在満当時の同窓を交じえての集いの

写真、多くの人々が国防服に身をかけたあ時代の様子が巻頭に写し出されているのも懐しく嬉しいものでした。

小野寺 哲 佐 (昭一一)

福島県支那支隊で戦歿学生の「丘と海と白い雲」を聞いて、小生も感激、昂奮に駆られていました。戦争の現実と人間の厳しさ、人生の苛酷さに泣き、諸君の無償さに涙し、僕らが曲りなりにもこうして幸福に暮らしているのはあの人々の犠牲のお蔭のような気がしてなりません。

尾崎 哲 平 (昭一四)

「緑丘」戦歿学生特集号有難く拝誦致しました。戦い終って二十年、初めて「小野隆也」の書を公開誌上に慰めることができ、小生としても肩の荷を下ろした気持ちです。有難うございました。

柏 塚 浅 一

「戦歿学生特集号」実に結構なる御編集、元来小樽商大の歴史校長、学長は皆実に立派な精神的の先生でございます。例えば苦米地先生の緑丘四〇号の「特集に寄す」御一文の如き、単に小樽商大の後輩に寄せらるゝのみでなく、社会一般の人士に与えられし名文章と拝します。「周到なる注意を疎かにして自己の責任を運命に転化するの卑怯であらう」と喝破しておられます。

高橋直敏君 (昭和十九年五月八日戦死)

下の二隅にて憶面もなく、ポケットより煙管を持ち出して煙を喫う快男児、彼の面目が躍如として。外語劇のマネージャーとして英語劇の面倒を見てもらったこと。北大野球戦に負けて南小樽駅に下車し二人で肩を組んで泣いたこと等、昨日のような気がしてならぬ彼のことだ。確かにいったに違いない、彼のリハールの時のように「おい皆さん最後だやるべよ」

昭和十三年卒に告ぐ

大野 陽之助 (昭一三)

戦歿学生特集号拝読いたしました。昭和十三年卒といえは、ほとんどの方が軍隊に入り、戦線に参加された方々が多いのも他の期に比較して決して劣っていないことでしょう。また尊い犠牲も最も多かつたのではないかと存じます。現在でも同期生の会の度に、戦争のそして戦友の話が出ないことは殆んどなかつた筈です。それなのに戦歿学生特集号を開いたとき、若山君の「戦歿同窓を誇りとする」のみだったとは……。昭和十三年の会の皆様に申し上げます。それよりも先ず編集者の薑目兄よりの御手紙を御知らせ致します。『S13会の記事、写真有難うございます。』(註)去る十一月十三日の東京S13会の写真並に簡単な記事を送りました。

戦歿学生特集を見て下さいましたか。(中略)御覧の通り亡き学友のことを一人も書いていないのはおきれました。戦歿特集の発案者は若山君でした。緑丘大阪支部総会の席上、加茂学長の戦歿学生の霊をまつる話の終わったあとにマイクの前で発言したのが若山君でした。緑丘戦歿特集号をやるうち、昭一三には沢山の戦歿者がありながら書こうとしないうのですから私もあきれましました。(後略)

ともない。終始学寮生活なるも何時彼が勉強するのか誰も見た者ないと彼の身辺は常に謎と神秘につつまれていた。口の悪いのでは日本人教師にひげをとらぬマッキンノン先生しみじみ彼を眼鏡の底から眺めて曰く「Watanabe is great」服の縫いのと靴の破けているのも学園一、その他は人の努力して及ぶ世界ではない。天賦のものか。常に笑顔で万人に接し愛想がよい一橋大学二年で外交官高文パス、ドイツ留学後、大使館附、出征、彼の如きを一兵卒に引き張り出して殺すようでは後のことは何もいうことない。軍の機構の粗雑さは戦わずして負けているというべきである。酔うと原語(?)アリアソンを唱い出す時のみ僕等のレベルまでやると降りてきたような気がし劣等生一同ホッとしたものである。

二寮の正気寮(今は智明寮というらしい)以来一緒であった。補欠で入った負目を何日も気にして意外な闘志を秘めていた不言実行、目的完遂型、鈍重にして世事に疎い点、妙にうまが合つて彼のボソボソした声を聞いていると心が落着いてきたものである。果せるかな、卒業時にはトップクラスに立ち一橋大学合格。テニスコートに直ぐ下の彼の下宿を訪ねたらお茶も煎れてくれず、僕の知らぬ名前の経済原書を読んでいた。ピリッラムクラブだ。外語劇だとスター気取りでいた、自分の足許が音立て、崩れ落ちるのを感じた。彼は僕を離れて僕の知らぬ世界へ行ってしまったのを感じた外は小樽特有の粉雪がチラチラ降っていた。それ切り彼には逢っていない。最後の眠りに就いた彼の頭には経済原論の原書の文字が一杯積って何も入る余地がなかったに違いない。生きていればもう一人の手塚さんができたのには羨しく同期生の歎くところである。

戦歿同級生の「白い雲」達

小野寺 佐 (昭一一)

渡部耕一君(昭和十七年戦死) 病葉の散り尽した地獄坂を左右に肩を振りふりよちよち登る朝鮮の中学からきたチビの応援団長がいた。

頭腦のシャープなことと体に反比例して胆の大きいことでは学園内のピカ一、三年間特待生で卒業もトップ一橋大学最上位合格ときてはいうこ

昭和十七年の秋も深いある朝、僕の勤務する某大軍需会社ではその朝ラジオニュースにより齎された山崎部隊長の率いる北千島守備軍の一兵の援も乞わず一発の弾も持たず全員米軍に突入玉砕せるニュースで持ち切っていた。計らざりき数日後、発表された新聞紙上に見慣れた君の顔を紙上に見るとは、渡部君は小樽の産、樽中出身、白哲の貴公子頭脳明晰秀才の誉れ高く群を抜きAクラスにて三年間同クラス、独乙語の試験ではよく彼に援けてもらった。秀才にあり勝ちな冷血孤獨型処か多感なる社交型好男子の美青年にて、応援団のリーダー生徒控室にして廊



三 緑 丘 人 物 譚 三

(9)

株式会社 三優社
取締役社長
山村太兵衛氏 (昭12)



年小樽商大に御入学されたらうでおめでとうございます。社長さんもおさそしお喜びのことです。山

山村 親子二代小樽商大に席をおくことができて光栄に存じております。

小田島 社長さん御自身で車を運転御活躍されていると聞いております。

山村 人手が足りないのと自分でも時でも飛び出す必要性からこの歳になって六月免許をとりました。

小田島 スポーツなどは如何です。

山村 何でも好きですし、どのスポーツも一応は理解してはいますが、今は見る方が専門です。業界で五、六年前からゴルフ熱が盛んだったので始めましたが月に一、二回コースへ出る程度で健康本位です。ハンディも万年三十です。

小田島 御出身は？

山村 本籍は滋賀県ですが小樽で生まれ、小学校は本籍地、庁立小樽商業から小樽商大に入りました。卒業と同時に縁故により朝鮮三井百貨店へ就職、京城へ赴任、間もなく京都の師団へ入営しました。この頃から支那事変に入り、引続き応召の制度で陸軍經理部、工場会計監督官の第一期生として軍需工場の原価計算を担当、この当時の実務経験が私を会計經理畑へ走らせる下地になったと思います。

小田島 社長の手堅い経営方針の基礎はその当時培われたのですね。

山村 そうでしょうね。戦後復員した時は朝鮮はすでになく、昭和二十三年、現在の会社を創立しました。經理を知悉した経営者としての私は地みちに一貫した堅実経営に徹して戦後の混乱期を乗り切りました。私のようなやり方は目をみはるような大きな飛躍も遂げないが、思いがけない破天んでも招かない。私は始終この方針を守ってきました。

小田島 いままでに最も嬉しかった時、苦しかった時についてお話し願えませんか。

山村 戦時中でしたが昭和十八年中井百貨店の本部經理部長に復職した時、仕事が自分の思う存分にやれて月給が多かった時と戦後十五万円スタートした今の会社が初めて自分の社屋を持った時が一番嬉しかった。苦しかったのは勿論ヒリッピン、ミンダナオ島で戦前後の山中放浪で生死を天運に任した時と、昨年卸仲間の得意先の倒産で私共企業では記録的大きな貸倒損失を蒙り悲嘆のどん底に沈んだ時でした。

小田島 今一番差迫った問題は何か。

山村 私共の業界ではメーカーは順風満帆、販売部門は収益低下で苦難の明け暮れですが、これが積極打開策といまでは中小企業の宿命と云われる人材の入手難とその原因の一つである社員住宅の確保です。それに前述の傷手挽回のため

の社を挙げての努力の結集です。

小田島 今後の方針とか決意の御一

端を。

山村 いくら過去の「のれん」があるといっても安易に情してはいけません。広告マッチも絶えず新鮮な広告PRを必要としますし、新しい需要の創造を目指してあります。私共は小さな企業ではありませんが、尽くることを知らないアイデアで勝負していきたいと思っております。

小田島 ところで社長さん北海道へ旅行される計画はございませんか。

山村 もうすぐ(昭和四十年)銀婚式です。その時は是非北海道を旅行したいと念願しています。

小田島 御忙中のところ、いろいろと御高見をお伺いできまして有難うございました。

(訪問者) 小田島和夫(昭和三十一年) 日本新薬株式会社 業務室営業企画係長



【訂正】 四〇号「緑丘人物譚」小川又司氏(大一一)は小川又治氏(大一一)の誤りでした。

まんびつ五人集

まんびつ五人集

私が居った頃のこと

手嶋 恒二郎 (東京支部)

私が小樽商大に在学したのは大正十三年から翌年昭和

その頃の北海道は、経済界の不況に天災が重なって、道内一帯になんとなく物情騒然としたものがあつた。札幌の町など、そう思って歩いてみると、何処に行っても演説会というものに打当つた。時にアナキスト達の集りの場合などは、血だらけになつた弁士が、物凄く怒号のなかを警官に引ずられながら飛出してくるといったような始末で、そうした光景に接すると若いわれわれの如き息をのんで佇んでしまうことも再々であつた。

そのような市井の激しい空気のかにあつて、当時、学校というような所はどのような状態にあつたものか、われわれには適確には知る由もなかつたが、それでも新進気鋭の先生方という、大方は自ら進んで共にマルクス主義に関する講義など

をやってくれていたのだから、そうしたことを綴り合わせて考えると、静かなるべき学問の堂といえども、実は世俗の動向に一切超然という状況でもなかつたようである。

思出せば、そうした時期のある夏に、榊田民蔵氏や大山郁夫氏のようないわゆる最先端をゆく学者達も、わが高商のあの大講堂に現われて、われわれのために正規の講義として話をしてくれられたことさへあつた。たしかあの時の大山さんの演題は、「政治と文化」とかいつたように記憶するが、どういふわけか、あの時あの講堂の演壇に長々と貼られた墨痕あざやかな垂紙の字の見事さはいつまでも忘れることがない。

榊田民蔵氏は一回だけの講演ではなかつたような覚えがする。だんだん記憶もおぼろになりかけている。今であるから、これも正確とは言えないけれど、たしか数回にわたつての「資本論」についての解説ではなかつたらうか。といつても、その講義で、どのような内容のことを耳にしたのだつたかは、その大半というよりも今はなにも覚えてはいない。ただ榊田氏が、自分は「資本論」を五十四回も繰返して読んだという述懐だけは妙に頭に残っている。おそ

次回

吉岡相山 田田本満 中

庄太郎(大一一) 正(昭二四) 元次(昭二二) 博元(昭二二) 晴雄(昭二二)

じように青春の時期をたしかにおくつていたはずの、伊藤整氏や故小林多喜二氏などは、一体どのような「生き方」をしていたものだったろうか。このお二人には不幸にして一度も会つたことも話をきいたこともなかつたので、色々の意味でしきりと気になる時期も私にはあつた。

やがて、あの小樽高商の不幸な歴史的事件は、以上のような学内の空気のなかで起つたものであつた。事件とは世に例の「軍教事件」といふあれである。

次は山中晴雄氏にお願いいたします。(昭二 千代田火災海上保険取締役社長)

眠り三昧

増田 常次郎 (名古屋支部)

さきごろ「悪い奴ほどよく眠る」という映画の広告を見たが、映画を見ていないからその内容は知らない。しかし新聞広告で、「悪い奴」という大きな文字を見たとき少しいやな気がした。とい

うのは私に実によく眠るからである。どうせ客寄せのために奇抜な題名を考えたから何も気にしない。これはいいのだが、現在のうちに社会の各方面とも対立、混乱、激動している時期に、私のようによく眠る人間は「悪い奴」でないまでも「凶々しい奴」だから、いつものんきに眠るんだという考え方が一部にあるかもしれないと、これまで思ってもみなかったことを気に出した。それほど私はよく眠るのである。勿論眠るといっても眠り病に罹っているわけではないから一日中眠っているわけではないが、夜、寝床に入ったらいつもすぐ眠ってしまう。就寝時刻が早くとも遅くとも同様すぐ眠ってしまう。

女房子供は「おとうさんは年中よく眠れてしあわせですね」といつも羨しがったようにいうが、その言葉の中に多少困った人だとの意味も含まれているのである。夜だけよく眠るのなら格別気にすることも無いのだが実は昼でも酒が入ると眠ることがあるのだ。私は晩酌のときでも酒席でも、酒量が適度を越すといついかなる場合でも眠ってしまうのである。人前で眠って甚だ失礼なことがしばしばある。私自身失礼せぬよう随分緊張しているつもりでも、アルコールが適量を超過すると因果な生理現象とはいえず、人様の前でわれ知らず眠りに入ってしまうのである。凶々しい奴といわれたいではないが、人前で眠り方をするのである。人前で酒を飲むときは眠らぬよ

ういつも気を張っているつもりだが眠りに至らぬ酒の適量がその都度異なるものだから失敗が絶えない。よく眠る私を羨しがめる家族も、来客等に初対面の方と蓋をあけていこううちに眠ってしまう。私にはほとんど困っているようで、お客様のみならず、女房子供にもまことに相すまぬ次第だが、酒好きの私は今後もおそろしく失敗を繰り返すことだろうと自分の体質を残念に思うのである。

また女房同伴で御招待を受けたときなど、私よりも女房が大変な気の遣いようをする。私の眠りを警戒する女房は万一に備えて「主人はお酒を頂くとよく眠りますので」と前もって積明するとともに私の横に付き添って「眠ってはいけません」を小声で繰り返して注意してくれるのである。ありがたいやらすまないやらである。

まんびつ五人集

こんな素晴らしい眠りをもつようになったのは、今から二十数年前、昭和三十六年の晩秋、私が日銀新潟支店に勤務していたとき、一日新潟県雲洞庵という禅寺に泊りがけで出かけたことがある。その夜同寺の住職新井石龍師から禅の話、道元禪師の言葉など聴聞したのであるが、その道元禪師の言葉の中に「人間の眼は横になっているのが、当り前で、鼻は縦になっているのが自然である。人間は何よりも自然に振舞い生きるのがよいのだ。自然にそむけば苦しむ悩むのだ」という意味のことがあつて、このことを石龍師は細々と話し終つて「私のただいまのくどくどした話は全部忘れてしまつてよい。唯眼は横に、鼻は直に、縮めていえば（眼横鼻直）となるが、このことだけ忘れずにいたら、必ずこれからのあなたの人生に役立つ」といわれたことが脳裡に刻みつけられて忘れられないでいる。

朝寝坊の記

限田 鑽三
(東京支部)

坊は江戸ッ子の特異というが、私は緑丘人にはめづらしい九州熊本産である。入校のとき一寮に配属されたことを今でも感謝している。いづころから寝坊になったのか明かでないが、寮祭で演じた婆さん役の芸名が「ネボ子」であつたところから、一年生の秋頃はすでに相当なものであつたのだろう。

三年生後期は奥沢を一望に見渡す住吉神社裏に下宿を移した。何を好んで速くに居を遷したかは別として毎朝人影のないあの坂道を登校することが多く、靴箱の奥の炬をかこんで遅刻の常連で一時を難談にすごした懐かしい思い出が残っている。戦時中満州本溪湖の製鉄会社に奉職、これが私としては唯一の正規のサラリーマン生活である。入社当時は通勤バスに乘遅れて会社まで走つたこともある。しかしだんだんと本性をあらわし、入社第一年度は遅刻過剰のためボーナスをストップされ

相当のショックを受けた。しかしこれをもって改心できたわけでは無い。ただどうにか終戦まで人並に勤めたことだけは確かである。

戦後は朝寝坊サラリーマン失格と明確に意識したわけでもないが、会計士という職人になつてしまつた。ご推察のとおり、朝寝坊も宵ッ張りもほぼ自由であつて私にできる適当な職業であつたようだ。中小向けの仕事では一日いくらで身売りすることが多い。基本的には契約の不備によるのであるが、相手さんはなるべく長時間使つたが得と考えているのか、あるいは当方のペースに巻こまれるのか、深夜までサービスに及ぶことが多い。必然的にあるいは自衛上やむを得ず、翌朝は最も得意とする。寝坊を楽しまざるを得ない。かようにしてすでに十四年の年月を過ごし、ますます本領を発揮している次第である。(昭一四)

陽のあたらぬ

人のためにも

佐々木 成彰
(東京支部)

雪化粧の丘をあ
とにして二十有七
年、まるでつい先
日のような気がする。
南朝鮮に職を得て、まさか兵隊に

まんびつ五人集

とられることはない、たかをくくつていたら昭和十三年夏赤紙を頂戴し、中支を転々として三年後帰郷、いよいよこれから出世？街道突撃だとはりきつていたら終戦で引揚、着のまのままで妻も子もとも引揚げて新さまきなおしだとして東京に飛び出し個人商店からやりはじめた矢先、チプスで生死の境を経た、また足踏みした。在学中あまり勉強しなかつたが手取り早いと思つて進駐軍の通訳のようなものを三年、これも永住の地ではないとおさらば、それから本人は転職の意志はなくとも解散等のため二転、三転、不惑の坂も半ば過ぎ、やつと今の会社にどうやら到着いて人様なみの生活に近づきつつあるわけで、まあ幸い借金もせず体もどうやら健康で、子供も二人大学に通つているし、感謝しなければならぬ。

二転三転のときだったが、緑丘会や同窓クラス会は陽の当る連中の会と思つてならなかつた。あれは恵まれた連中の会だとしてか考へなかつたこともあつた。たまたま出世の君を訪ねると、あげくの果、保険外交でもやつてみたらといわれたことがあつたが、順風満帆の人にはわからぬいなと嘆息久しく受付子に一礼して帰る身の辛さを味つた。同じ会社の旧制高校出身者の話を聞いた時に、やはり彼らの団結というか、すべてを超越した交りに旧制三年の生活がどんなに意義あるかを思い知らされた。そしてひがんでみたものの、最後に頼るものは自分一人であるの感

墓目(ひきめ)

という事

墓目 英三
(大阪支部)

墓目をヒキメと読まない人が多い。旭川の連隊に居た時、某連隊長が私をカニメ中尉と呼びびくりにしたことがある。正しく呼んでくれないと感じの悪いものである。

緑丘人でも、ああヒキメと読むのか、変つた名前だなあという。銀行へ行つて窓口でガマメさんと云つたら返事をしない。人の金を預つておりながらガマメさんとは何事かと云いたくなくなり、預金全部を引出したくなる。銀行員に告ぐ、姓名を正しく読むのは銀行員のエチケットでありよく教育して置いていただきたい。何も墓目に限つたことはない。まだまた変つた名前が沢山ある日本だ。ガマメ、ヒケメ、シチメ(仙台人に多い)シケメ、自分が聞いても恥かしい。手紙で来る誤りは、墓目、莫目、蛋目、中には墓目がある。全くあきれたものだ。そのうえ丁寧な目を田んぼの田と来ては、よほどの間抜けと来たものだ。

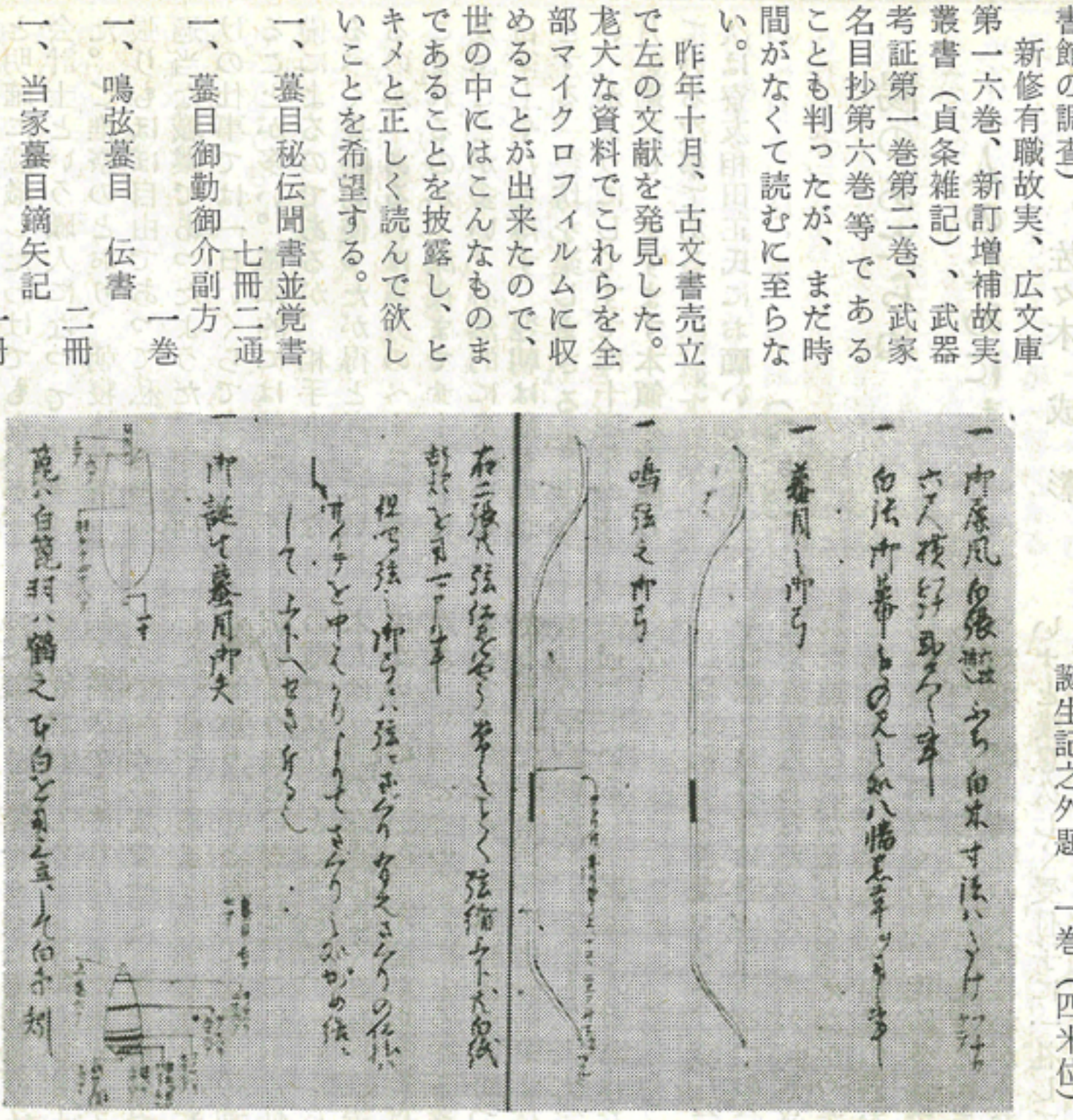
墓目と云う地名はある。若手具に従つて墓目神社もあると聞く。勿論漢和辞典にも広辞苑にも出ていない。即ち妖魔降伏のため弓弦を打ち鳴らすその弓矢のことをいう。即ち

鳴弦であり、浩宮生誕の折もこの墓目を鳴らして鳴弦の式を行ったことは新聞紙上で読んだ人もあろう。貴人出産の折、妖魔を降伏するため男児には三度、女兒には二度墓目を射るのである。

墓目に関する文献は(大阪市立図書館の調査)

新修有職故実、広文庫第一六巻、新訂増補故実叢書(貞条雜記)、武器考証第一巻第二巻、武器名目抄第六巻等であることも判ったが、まだ時間がなく読むに至らない。

昨年十月、古文書売立で左の文献を発見した。老大な資料でこれらを全部マイクロフィルムに収めることが出来たので、世の中にはこんなものまであることを披露し、ヒキメと正しく読んで欲しいことを希望する。



一、墓目秘伝開書並覚書 七冊二通
一、墓目御勤御介副方 一巻
一、鳴弦墓目 伝書 二冊
一、当家墓目簡矢記 一冊
一、九字十字護身法記外十五冊(九字十字に御願いする。)
一、明頭墓目伊勢家より伝文 十二通
一、血留紙 七枚

次は六ヶ敷い名前の我満博仁君(昭二五)に御願いする。
(昭一一) 塩野義製薬資料室長

まんびつ五人集

- (客員) 松尾教授
(大三) 高橋徹男、下吹越栄吉
(大六) 八木康之助
(大八) 伊東小四郎
(大八) 戸井正三、大野純一、三好長次、増井得三、谷本朋次、郡菊之助、西村百太郎、松本義一、大山謙吉、広岡一男、福田誠、藤居元三
(大九) 菅谷重平、奥村義信、小島憲市、奥田直
(大一一) 宮地邦介、小橋庸三、杉山昌作、神沢重治、梶川亨司、功刀素重
(大一二) 田中弥三郎、塩谷精一郎、大久保鹿次、大井義郎、渡辺一夫、小河成美、池田繁正、田中英、穴釜升夫、玉井武、日南田美文、佐藤信雄、若林周五郎
(大二三) 古関周蔵
(大三四) ほんろが太郎、片岡亮一、小武海鉄郎、松原治郎、森下弘、北村良吉、桐田鉄郎
(大四五) 増田常次郎、中野清一、白木小一郎、近藤徳弥、津久井七雄、大平善梧、西野嘉一郎、竹内隆
(昭二) 黒羽秀夫、牧野吉男、岡田政治郎、堂城不二人、友沢和一郎、小貫武、手島恒二郎
(昭三) 佐竹繁寿、樋山三郎
(昭四) 小山健児、湊静男、高橋一男、玉井英雄、宇山慶三
(昭五) 池田啓助、井藤久也、吉田友記、北村太治郎、横井七之助
(昭七) 八家要
(昭八) 土岐秀雄、本間広松、小池三郎、高見美雄、会津幸雄
(昭一〇) 篠崎万治郎、若月雅司、北村匡弘
(昭一一) 浅野潔、土屋龍郎、木下春雄、三崎嘉郎、島崎保信、中尾弘、中道良徳、川原俊一、松井要吉、進藤彰、越崎清二、中木平三郎、丸山一郎、紫竹亞津視、秋葉隆一郎、墓目英三、本間誠一、鎌田正三、木村頼雄、小林啓作、角谷榮作、上野茂
(昭一二) 内藤好生、皆川莊一、西谷作太郎、矢野正郎、宮内美雄、木内武之助、牧田恒雄、本間英作、森川正明、石川孝一、浅田厚、岡田保司、山村太兵衛、佐々木成彰
(昭一三) 江川裕一郎、若山永太郎、木村章三、山本俊雄、松ヶ野寿夫、丸山弥、平木勇三、金垣英雄
(昭一四) 伊原利勝、大沼誠治、北村幸、谷英純、沼田博、太田正勝、巻岐雄雄、河西辰男、沢村重一、石黒政夫、北条恒一、三浦正、飛塚誠一、竹島篤二郎、金井勇、八木安、野村鉄太郎、福地貞雄、櫻村久好、尾崎哲平、沢井道成、隈田鐵三
(昭一六) 相原正美
(昭一七) 中村平之助、小林芳美、松村克己
(昭一八) 初谷真一、長尾昌弘、桑野泰次郎、阿部敬作、越智直行、山田光男
(昭二三) 牧口富伍、リトル・ラン、ドナア、服部奎吾
(昭一五) 北野巧
(昭二九) 古内一成
(昭三〇) 石津洋三
(昭三一) 小田島和夫
(昭三五) 佐藤良雄、本前勝支朗、長津行高、猪浦淳一
(昭三六) 神田隆志

東京北斗寮忘年会開く

十二月十二日 サッポロビヤホールで

昨夏の一寮ビヤパーティ、続いて今春、寮の小母さんの東京空路招待など、若手OBの動きが注目されてきたが、今度は大正および昭和初年のOB間で、懐しの旧一寮跡に記念碑を立てようと呼びかけが起った。

このような背景の中で、異例の北斗寮忘年会が、若手OBの間で計画され、十二月十二日(土)午後三時から、銀座七丁目のサッポロビヤホール二階で開かれた。参加する昭和二年卒の

小貫武先輩をはじめ、昭和十八年から三十八年卒までの若手を合わせて総勢三十一名、千葉、埼玉からの道も遠しとせず、欣然参集する顔、皆往年の情熱に寸毫の衰えも見せない。小貫先輩の音頭で乾杯、続いて挨拶。自己紹介をかねてのテーブル・スピーチがこのうえなく楽しい。

二〇年前の寮生活をホウフツさせる懐古談、歓迎ストームや予科戦の内幕等々、はては不振の証券界に身をとおく身で諸事多忙を極め、残念ながら会半ばにして退会する某君へのいたりとしと激励などは多彩である。やがて銀座の一角にも灯がともる「サービス」のキャンドルにも灯

旧寮跡に記念碑を!

がついて会は最高潮に達する。余興の追分が出る。小樽小唄もトビ出す。二十年前の応援団のリーダーも往年の勇姿を再現する。応援歌、行進歌の高吟、最後に北斗寮々歌の大合唱に感激をこめる。集まった三十一名全員、寮碑建設の趣意書に賛成の署名をして会を終った。「我が北斗寮ここにありて」の碑は一段と光彩を放つことであろう。(昭一五 赤津記)

大正13年級会

今年卒業四十周年記念級会を四月二十八、二十九日箱根で開いたがこの分録誌誌上に未だに報告を怠って申し訳ありません。今更この報告を書くのも気がひけるけど、全団にいる級友に対して、「緑丘」誌上に報告するのは当然の責務と思われるので年末、年始の休日

を利用して原稿を書かせて貰います。その後、八月十日の十日会は当番幹事に当ってこれまた不行届ながらどうやら相動めしました。これは当時既に御報告済。

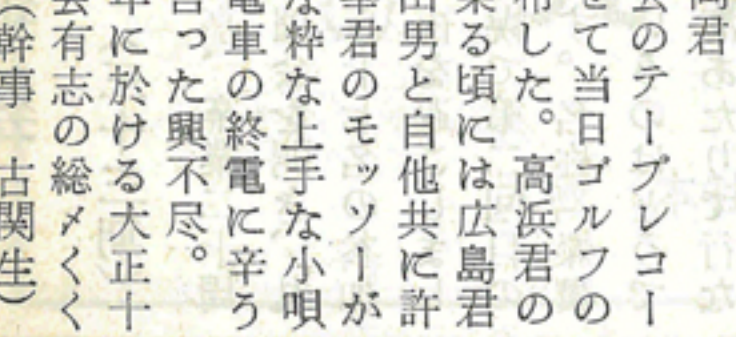
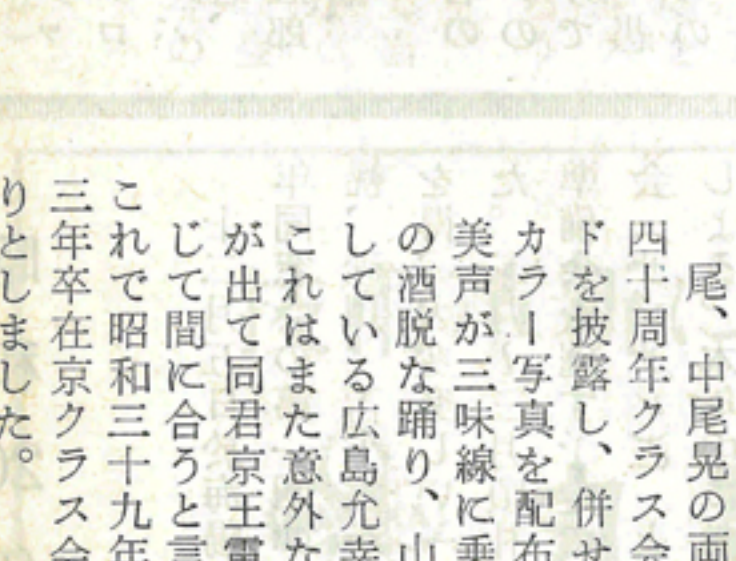
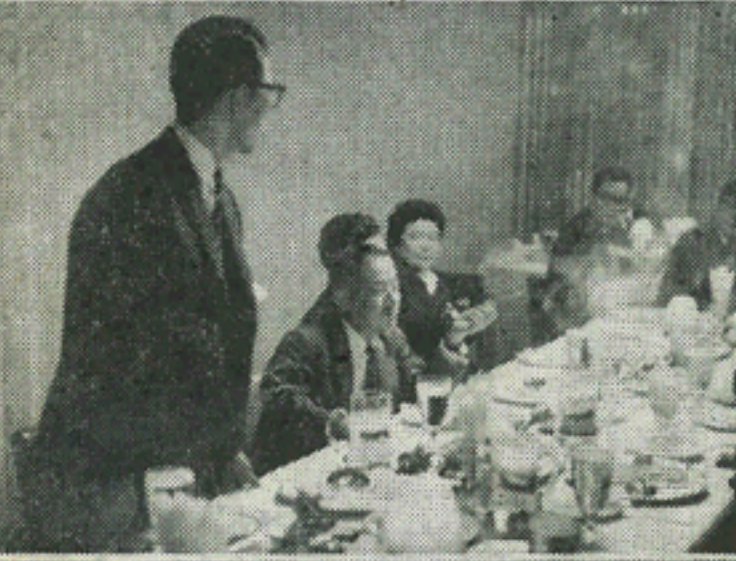
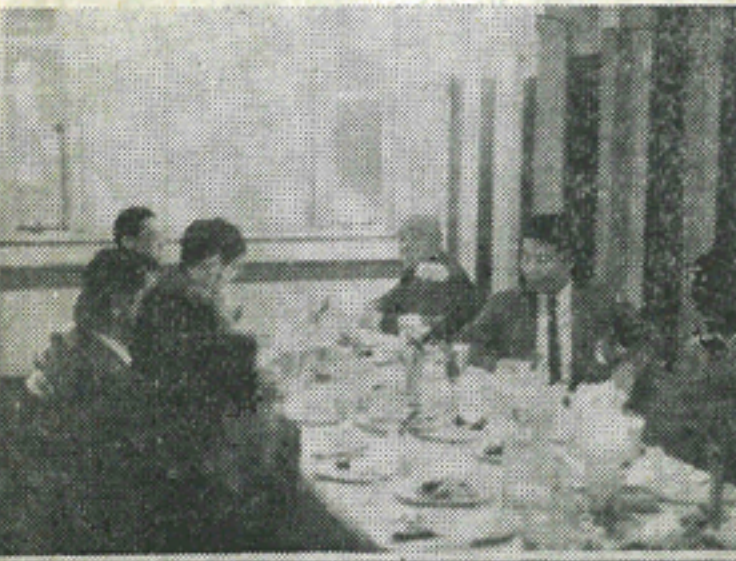
あれやこれやの後でもあると言っているので級会ゴルフ常任幹事、広野允幸君が、小金井カントリークラブメンバリの広島進君の斡旋肝煎で、今年最後のゴルフ級会をやることになったので、丁度良い幸と同記幹事会を開催した。

◎ゴルフ会 十二月一日
於 小金井カントリークラブ
参加者 広野允幸、広島進、谷弥太郎(以上三名は三日に一日は東京の何処かのゴルフ場に姿を見せている由、為念)

立花英二、田中修吾、古関周蔵以上六名の外、特別参加深谷君ら二名あり。合計八名で落葉散り敷くコースを安気にプレーを楽しんだ。

◎同日夜吉祥寺、双葉(延寿太夫宅)
参加者は上記ゴルフの他、高浜年尾、中尾晃の両君
四十周年クラス会のテーブルコードを披露し、併せて当日ゴルフのカラー写真を配布した。高浜君の美声が三味線に乗る頃には広島君の酒脱な踊り、山男と自他共に許している広島允幸君のモッソーがこれにはまた意外な様な上手な小唄が出て同君京王電車の終電に辛うじて間に合うと言った興不盡。

これで昭和三十九年に於ける大正十三年卒在京クラス有志の総々くりとなりました。(幹事 古関生)





後列右より 阿部久喜 桑原正司 田口義雄 土岐秀雄 南雲俊栄 宇尾五郎 児玉廉平 和島賢治 鈴木雄吉 中列右より 田代明弘 日下英一 伊藤善雄 渡辺恒雄 風谷秀夫 奥井康夫 野崎信夫 明石錦次 永井勝美 酒井美夫 前列右より 沢登義隆 神谷弘一 鈴木三男 近江勇平 八木植二 大塚友信 大河内誠一

東京緑丘昭八会

(時) 昭和三十九年十一月二十六日午後六時
(所) 新宿 東京大飯店
(出席者) 三十一名

昭八告知板

鈴木三七君大阪に立寄る

(十一月二十七日)



(右から会津、室、鈴木、田代)

小樽から鈴木君が見えた。丁度会津幸雄君(日立造船)が社長室長と新聞に発表された三日後のことである。彼は東京駐在と決ったことを聞いていたので、その送別会を兼ねて歓迎会を開催することに決った。東京建物の田代君も先般来阪してまだ歓迎会が済んでおらぬので、神戸の水島、本間両君にも連絡をとって、ここで三人の歓迎、送別会と朝日ビルみやげに会場を決めた。日立造船社長の御名代として、東京駐在ともなればなかなか多忙の会津君である。一時間遅れて行く旨の連絡

を受ける。緑丘誌で御世話になつて、いる墓目君も呼ぼうというので、鈴木、田代、墓目、室の四人でそろそろはじめた。途中から汗をふきふき入って来たのが会津君である。三時間余り近況を語り合つて別れた。(室 記)

佐藤良司君(昭八) 逝去のお知らせ

逝去のお知らせ

十月八日夕、社用のため上京中の小生の所に、同期の宇尾五郎君から電話があった。「佐藤良司君が本日死亡した旨鈴木三七君より電話があった。札幌の君の所にも通知したが上京中とのことなので、僕に連絡があった」とのことであつた。

緑丘生活三年間をラグビー部の同じ釜の飯を喰つた仲間が一人居なくなつたことになる。悲しい限りである。心から同君の御冥福を祈り上げる次第である。佐藤良司君はボートの名門として知られている小樽中学の卒業でありしかも在学中はボート部に籍をおき、整調として全国制覇と言つて誇かしい記録を持っていた。昭和五年小樽高商に入学、何の縁かラグビーと言ふ處に取りつかれた訳である。

同君は、追分節で名高い忍路高島の高島の産であり、性は極めて真面目でじっくりと何事もやりとげる型の人であつた。また無類の頑張り屋であつた。さすがボートで練上げて来ただけにラグビーの練習でも決して音を上げず、我々を激励したものである。同君の思出はすべてラグビ

一部に思い出になつた。君は右のフッカー、僕が左のフッカー、ロック田口軍司君、バックロウ豊良博君、ハーフ三上四郎君、バック五月女要作君、近江平八郎君、本間勇吉君、マネージャー宇尾五郎君、シんバ(準部員)山本繁雄君、佐藤益衛君。

昭和八年卒のラグビー部員は右の通り十一名。先日までは運が良いのか、本間君のみが戦病死しただけで十名が現存していた訳であるが、悲しいかな良司君の逝去により残りの仲間が九名となつた。

山上グラウンドでの練習、花園公園での試合の思い出の数々。あるいは北大グラウンドに於ける対予科戦での同点引分けと言つ、高商ラグビー部初めての記録を作つたこと、そしてその夜の祝勝会残念会の何れでもないミートイングの酒のまづさ加減。全部同君と共に味わつてきた思い出である。

卒業後は会う機会が少なく、特に最近のことは全然知らない。何とも申し上げられないが、ただただ同君の御冥福と御遺族の方々の幸多からんことを祈り上げる次第であります。九日の御通夜には在校同期の内より、佐藤功、本間正一、川田健二、鈴木三七の四君が参列致しました。未亡人の御名前はキチ殿です。以上佐藤良司君の逝去を御知らせ致します。(横山秀男記)

札幌昭八会は三月十三日(土)十四日(日)定山溪で開催予定

在京の昭八会員ほどよく集りたがる会は少ないでしょう。年に二、三回は必ず集ります。今度は北海道から鈴木三七君、横山秀男君、広島から土岐秀雄君の三君が特別参加もあり会は何時になく盛会であつた。

× × 集るからとて別に目的はない、ただお互に元気な顔を見るだけで満足なのである。三々五々語り合つてるとか、孫ができたとか家庭のこととか、血圧を下げるいい方法があるとか、また退職も近いんで土地を買っておきたいなどと誠に長閑な話題である。なにしろお互い中老の域に入つてゐるのだから。

× × なかなか話がはずんで別れ難い。誰れかが潮時を見て口火を切る「銀鱗踊る……」一座がこれに和して声高らかに唱う。どの顔にもあの頃をそのままに再現して思ひは遠く緑ヶ丘に。散会は九時過ぎであつたらう × × 会合も最近頻繁である、従つて当番幹事の回り方も早いので間もなく自分の順番がまた巡つてこよう。会うだけで悦び悦ばれているのが今の東京昭八会である。

(幹事鈴木、酒井)

昭和20年会

(三十三期)

十二月五日於海陽亭、卒業二十周年同窓会の第一回準備会を開き、札幌、砂川、苫小牧から十七名の参加を得、大変楽しい一夜を過ごしました。二月一三月頃札幌で第二回目の準備会を催す予定です。名称「燦霞会(サンサン)」というのはどうでしょう。本年中に熟海あたりで行なう予定です。(宮下新太郎記)

「緑丘」購読料の改定についてお願い

POORBYN

皆様お揃いで佳き新春をお迎えのことと存じ上げます。平素は「緑丘」に対し格別のご指導、ご愛顧を辱うし心から厚くお礼申し上げます。さて永年ご愛読を頂いております「緑丘」は過去数次に渉る印刷、用紙、凸版等資材の高騰や増頁による自然高騰により購読料改定のやむなきに至りました。何卒右事情ご賢察下さいまして料金改定に深いご理解ご協力を御願ひ申し上げます。四〇年度新購読料一カ年 七〇〇円 「緑丘」編集部

技術革新に貢献する



丸嘉機械株式会社

大阪(本社)・東京・名古屋・岡山・広島・姫路・仙台

東京昭13会集まる S 39. 11. 13



前列右より 山本、大塚、若山、金垣、室谷、高野、城川、青塚、河井
後列右より 窪田、皆川、柄沢、大野、三浦、柳川、一柳、三橋、今井

東京支部昭十三回は十一月十三日午後六時より、神田須田町「ぼたん」で開催された。

たまたま上京中の若山君（大阪、丸嘉機械）も参加され、幹事からその後、鳥鍋を囲み、例によって報告の如く、話の花が咲く誠に楽しい雰囲気であった。

- せ致します。
- 中央区八重洲二ノ五（不二ビル） 不二興産(株) (六八六一)
 - 福田 次 助君
 - 世田谷区北沢二ノ一四三 不二興産(株)
 - 窪田 多々男君
 - 千代田区丸ノ内二ノ一八内外ビル 北海製缶(株) (二八五一)
 - 柄沢 六郎君

興國人絹パルプ株式会社



事業部長 横山為祐 (昭12)

発酵化成品事業部

KRNA 精製リボ核酸
粗製リボ核酸

……医薬品、試薬、工業薬品原料
…調味料、医薬、試薬、工業薬品原料

核酸関連物質

…ヌクレオチド、ヌクレオサイド

医薬用興人酵母・医薬用ビタミン強化興人酵母

……医薬用バルク、食用、抗生物質培養基用

KR酵母

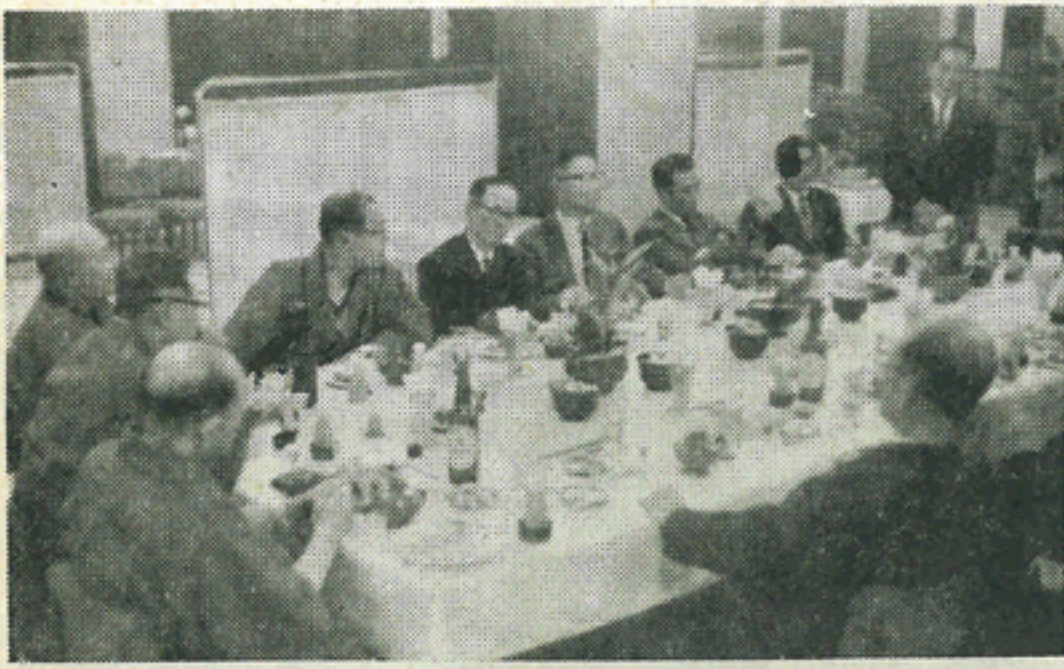
……動物医薬用、養魚餌料用、家畜飼料用、一般飼料用

グリーン酵母

……植物成長促進用

合興・親興・興山・山岡・屋古谷・京東・(株本) 興大

初冬の東山温泉に 花開く福島県支部総会



会津グランドホテルの懇親会

とき、昭和三十九年十一月二十二日二年振りにひらかれた第七回福島県支部総会は、名湯東山温泉の緑丘会館吉川景亮氏が経営する「会津グランドホテル」を会場に当り、会する者十二名、東京から駆けつけた大平善梧教授、大阪支部墓目英三氏、新潟支部野沢正一氏の来賓三名併せて都合十五名である。(委任状十三名)

は故父君要三氏の銅像建立除幕式とちか合い不参だった。会津の長老森武氏が代って挨拶、ついで議長席につき議事を進行した。担当幹事から、支部及び本部の動静、一般報告をし、収支決算案の可決、任期満了の役員を改選、支部長大島英二(大五)重任、副支部長森武(大五)、幹事長青木勇夫(昭二)の両氏新任、地区幹事に昭和和次生七名を選出、大正年次生七名を全員監査並びに顧問に選出、支部会員三十四名の運営に当ることになった。

以上を一瀉千里に決定、なお大阪支部発行の会誌全国版「緑丘」の発展を期し、愛読者募集に協力することを約した。席上、かつて北海道放送局から放送された松尾教授の「丘と海と白い雲」の録音テープが墓目氏から披露



小野寺氏挨拶

された。母校小樽から出征し、若くして散華した戦没学生を追憶とその遺族の真情を吐露した。真理の探求にかけた限りなき愛着、平和への希念、戦争を呪う赤裸々な声、聴く者をして胸を締めつけるものがあった。

氣をと直し、切角来会の大平教授に極く短時間ではあったが講演をお願いした。講演要旨は「世界平和の考え方の相違、その均衡の内容、共産圏との交易の実態、フルシチョフ失脚の真相、東南アジア開発援助、国内基地に関する問題と見直し等、内外の政治、経済、外交に亘る国際情勢を小気味よき口調で熱情をこめて論じられた。

ここで総会を終え、ホールに移ることもまた墓目氏持参の十六ミリカメラフィルムでの映写会を催す。卒業以来母校訪問の機会がなかった大半の会員が、鮮かに映し出された学園に、喰い入るように入った。潮の香のする小樽の海、緑り香しい山と丘、校舎、校庭、地獄坂、果ては伝統の劇、スポーツ、応援団を懐かしみ新しい施設に目をみはり、そこに躍動する教授、学生、同窓生等、いたるところに緑丘スピリットが旺盛している。誇り高き学園よ幸あれ!!

懇親会は予定時間を遙かにすぎたからだったが、来るべき会員も出揃い、改めて森副支部長の挨拶、そして乾杯、会津の綺麗どころのお酌は吉川幹事の肝入り、ほろ酔い加減のところまで自己紹介、雄弁家あり、学究肌あり、若き老生?老いたる美青年?年や姿、恰好に隔りあっても緑

丘につながる和氣は麗々たる雰囲気を出す。五〇年前を想起する大先輩、現世を論ずる中先輩(昭和二年生以下の小先輩なし)来賓大平氏のユーモアたっぷりの紹介、野沢氏の新潟支部現況、墓目氏の緑丘あれこれと近況、他支部の運営と活動そして「緑丘人の会合はビジネスを通じて、団結と繁栄に繋がれ」の挨拶に大拍手が湧く。一時半にわたる自己紹介を一文に綴って纏めれば第二の緑丘五十年史追録が完成するやに思えた。司会の筆者は実のある総会となったことを悦ぶと共に肩の荷を下ろす思いであった。小野寺氏始め地元幹事の配慮に感謝する。最後に支部会員の意向が緑丘の前進にあると察知し、学校、近県との交流、特に東北南部、福島、宮城、山形、新潟四県合同緑丘会の開催を提案、満場一致の賛同を得て、記念撮影、名残りはつきなかつたが、会津の幽境に緑丘の花を咲かせて、総会、懇親会を盛況裡に閉じた。

出席者

来賓

会員

- 大平善梧 (大一一五)
墓目英三 (昭一一一)
野沢正一 (昭一一一)
森武 (大一一五)
明田伊造 (大一一五)
青木勇夫 (昭一一一)
小野寺佐 (昭一一一)
飯坂久男 (昭一一一)
山岡良一 (昭一一一)
猪俣良一 (昭一一一)
鈴木正幹 (昭一一一)
三谷晃一 (昭一一一)
吉川景亮 (昭一一一)
佐治寛 (昭一一一)



宇山氏逝去を伝える玉井氏

昭和三十九年度最終の十日会である。当日の会合は計らずも中小企業の倒産と年末金融及び四十年年度金融の見透しについての討論会が展開され、尼ヶ崎市議大久保鹿式氏、住友銀行常務滝沢中氏、経理士大竹政雄氏ら交々意見の交換があった。

玉井英雄氏より同期(昭四)宇山慶三氏のありし日の佛をしのんで追悼報告もあり、堀目英三画伯の油絵展示もなされ、堀氏ほかの買上げがあった。サッポロビールが英国から輸入した新製品、黒ビール「ギネス」の試飲会をするなど、多彩な年末十日会であった。(若山記)

出席者
四谷、宮地、大久保、大竹、喜多村、畑、天野、滝沢、樋山、石井、田代、堀目、藤城、若山、市橋、桜井、角、鹿目、玉井、黒羽(二〇名)

大阪支部 十二月十日会

十一月十七日、寒さ日増しに身にしむ一夕、京都・加茂川のほとり「北斎」で、日本経営学会に出席中の室谷教授を囲んで有志懇談会を開催した。名物「御膳鍋」を前に、見違えるほど若返った(?)先生の尊顔を拝しながら話はずみ、閉店になったのを忘れて歓談した。先生がこの席の感想を直ぐに俳句によまれたのには驚かされた。

当日参集したのは山村太兵衛(昭和一二)、松本義夫(昭和一五)、堤正五郎(昭和一五)、我満博仁(昭和二五)、小田島和夫(昭和三一)、吉岡隆雄(昭和三五)の諸氏である。

翌日は先生早朝起床、山村氏の案内で朝もやに包まれた高速道路を大津まで足をのばされ、引続いて小田島の案内で西芳寺、落柿舎、龍安寺を廻られたが、時間の関係上ゆっくりと見ていただけなかったのは残念であった。それでも龍安寺の英文解説の立札の誤りを指摘されたり、苔寺では暫し立止って黙想したり、学者であり俳人である先生の面影の一端がうかがわれた。最後に札幌短期大学長としての先生の一層の御活躍を御期待申し上げます。(小田島記)



(懇親風景)

関西エルム会(北大)・緑丘会

×=×=×=×=×=×=×=×=×=×

合同懇親会

サッポロビール大阪支店会議室 S 39. 11.

(大阪十日会)

十一月例会は趣好を変えて関西エルム会(北大出身)と緑丘会大阪支部の懇親会を行った。

若山幹事と川田幹事(北大)との事前打合せが出来て、五時半には北大はサッポロビール支店長室を控室にあて、十七名勢揃い、高商、商大組は会場に十九名勢揃い。六時開会で北大組を拍手で迎えた。

何時もの十日会とは異つた静かな他人行儀の空気がただよう。

若山司会から北大関西エルム会々長、京都大学名誉教授、並河功氏を紹介、今回の小樽商大、北大の合同懇親会を祝福して挨拶、続いて緑丘会大阪支部長石田平八氏も日常北大出身の方には親しくおつき合いを願っているが、今回一堂に会合することの出来たことを喜ぶ旨の挨拶交歓があり、乾杯で懇親会に入った。

ビールの栓を抜くと不思議なもので、忽ちにしてなごやかな雰囲気となる。

北大側から自己紹介がはじまった。これで自己紹介が終つたが、六十才七十才代のエルム会メンバーの顔のツヤのよさには驚いた。どう見ても七十七や八には見えぬ若さである。

簿記やコロンでツカンダと張紙を見上げていた頃、かの北大はボブの木の蔭で青空を見上げていたのだ。その違いがこの若さの違いになつて現われているのであろうとさえ思わす若さがあった。

緑丘側大正十一年卒四谷宗義氏から自己紹介がはじまり、昭和三十九年卒那須國興君まで十九名の紹介も終つた。

大阪支部長石田平八氏(昭二)の札幌一中時代の恩師と云う沢田老人大正八年北大卒は正に大正八年生れの若さ、口にささやかなヒゲこそ貯えているが、ノドが自慢、ダークダックスそのけの美声である。進んで正面に出て「雪の降る町を……」を唄う。自己紹介ですっかり緊張の糸が解けた所へ美しいホステスが現われ、この美声が流れては、会場一時に騒然、若山司会の指名が北大側から代つて緑丘側へ飛ぶ。まづ第一に墓目副支部長のソーラン節にはじまって、地獄会の山ノ内氏、極楽会のベテラン宮地邦介氏へ、そして若山司会者も名調追分を出さねば納まらぬ所まで追いつめられたかの感があつた。緑丘人ばかりの会合ならばいざ知らず、エルム会との合同となれば、余程の名司会者でなければ運行が出来ぬ。誠に鮮かな司会にエルム会も楽しい一夕であつたことであらう。

若き日に返つて北大寮歌や小樽商大校歌の合唱が流れた。

再会を期し万才三唱してこの懇親会を終つた。

(出席者)
四谷宗義(大一一)宮地邦介(大一一)大久保鹿式(大一二)大竹政雄(大一二)石田平八(昭二)滝沢中(昭三)樋山三郎(昭三)堀池善弥(昭五)三浦儀三郎(昭五)大島三郎(昭一〇)堀目英三(昭一一)若山永太郎(昭一一)市橋宏一郎(昭一四)山内孝(昭一六後)安部盛之(昭三一)松尾俊彦(昭三四)角响(昭三四)小林裕(昭三八)那須國興(昭三九)



(関西エルム会メンバー前頁)

(関西エルム会長並河氏挨拶)



日立商品特約店

日本電氣機器株式会社

取締役社長 天野 雅 司 (大正15年)

本社 サクラバシ日立ショーストール

大阪市北区曾根崎新地2丁目50番地

電話大阪(361)8871番(代表)

大阪(361)4602番(夜間専用)

故宇山慶三君(昭4)の思い出

玉井英雄 (昭四)



若き日の宇山君

十一月二十四日早朝、宇山慶三君の死が奥様から電話にて知らされて来た。

二十三日の午後から急に容体が変わって、夜半一時過ぎ永眠したとのこと。この知らせに小生は愕然とした。

宇山君とはもう半年も逢っていない。今年五月初旬、同窓会(卒業後三十五周年)が熱海にて開催され、小生も宇山君も共に出席することにして急に行けなくなり、宇山君に出席出来ない旨をつげ、熱海の同窓会に出席の同窓生に近況を報告して貰うよう依頼の電話をしたところ、同君病床に伏しているとのことにて早速御見舞した。

肝臓が弱っているとのことでしたが、いたって元気であり本人も直ぐよくなる積りであつたらしい。八月には公認会計士の特例試験の問題にて講習会に出席、帰り道、小生は森川正明さんとかわるがわる近況を報告した。

告し、元気な姿で十日会にも出席して呉れるようはげましの電話をしたあの時の同君のあの鼻にかかる言葉を聞いたのが最後になった。

我々職業会計人は、他の資格を要する職業弁護士、医者以上に後継者と顧問先の問題についてむづかしい面があるので、後に残された奥様の御心痛は他の職業の方には御理解願えぬ程、大きなものであると思われ

大阪の計理士界では他校出身の方もうらやむ緑丘会計人の中でも、小生とは第一の北斗寮にて三年間同じ釜の飯を食い、ストームをやり、共に学び、共に遊び、計理士としては小生が先輩であるが、親友である宇山君の死には非常に「ショック」を受けました。夜伽には、よう出ませ

今、ペンを手にしながら、思いは三十八、九年前の小樽の思い出が走馬燈のように浮んで来るのです。あの四月、花の大坂を立って、黒い雪が降り積っている小樽駅のプラットフォームに降り立った時には、遠くまで来たものだと思ひ、先輩につれられて第一寮に落ちついて、ほっとし

ました。少し調子が違うが関西弁を聞いた時は、淋しさの中に懐しさがこみ上げて来た。その関西弁の主こそ宇山慶三君であつた。

同君は奈良県畷傍中学の出身であり、小生に「ハーモニカ」を教えてくれたのも宇山君であり、「パイオリン」の手ほどきをしてくれたのも同君である。古き本箱から学生時代の「アルバム」を出してみた。

同君は庭球の選手であつた。写真は、ありし日の宇山君のポーズである。第一寮の窓から、宇山君が現、神戸製鋼所の湊静雄常務と組んで対北大戦に臨み、または椎名先生とテニスをやっている姿が眼の前に浮んで来る。

寮の内に於ては同君のあのユニフォームな、鼻にかかる関西弁にて寮は

明らかになり、ピンポンも相当なものであり、対寮試合には必ず選手として成田勝美君(八戸商業の先生と成ったが、今はこの世になし)等と共に

寮の記念祭の時の写真。二年生の時、菊地寛作「恩讐の彼方」の中川三郎兵衛の二子、実之助をやり、三年生の時の「和製ボバリー夫人」は大いにかっさいを博した。その時の写真をここへかかげることとした。

第二外国語は同君は支那語、小生は独語であつたために一度も同じクラスにはならなかったが、同君の声帯からは支那語は得意そのものであつただらうし、教室もさぞかしなごやかな雰囲気につつまれていたこと



恩讐の彼方(左から二人目)



和製ボバリー夫人(右から二人目女役)

明るくなり、ピンポンも相当なものであり、対寮試合には必ず選手として成田勝美君(八戸商業の先生と成ったが、今はこの世になし)等と共に寮の記念祭の時の写真。二年生の時、菊地寛作「恩讐の彼方」の中川三郎兵衛の二子、実之助をやり、三年生の時の「和製ボバリー夫人」は大いにかっさいを博した。その時の写真をここへかかげることとした。

である。色々思いにふけて、十二時近くになる内に夜も更けて、十二時近く来た。同君とは卒業後進んだ方向が違つたので消息を聞かなかつた。戦後逢つた時は彼も計理士となつていた。それから同業者としての身近の第二の交際が始まり、一身上の事柄にもふれて相談を受けた。このことは私の一人の胸に永久にしまつておき

故安村靖彦氏卦

大正十一年卒業安村靖彦氏(前北陸銀行重役)は十一月二十八日肺気腫のため他界せられ、十二月一日富山市東別院における告別式には北銀頭取以下多数の名士が参列、緑丘会員では神沢重治、河合邦吉、金岡辰男、石田英夫(卒業年次順)等の諸氏が会葬し故人と同期の神沢が左記弔辞を捧げた。(富山県支部報)



(右)筆者 (左)安村氏

秋風落葉ノ季緑丘会員安村靖彦君忽焉トシテ長逝セラル。君ハ明治三十三年富山県福野町ニ生ラリテケル旧砺波中學校ヲ経テ小樽高商ニ學ビ卒業後直ニ銀行ニ入行シ累進シテ同業本部ノ枢機ニ参画セラル北陸銀行ニ統合後ハ營業・審査・総務ノ各部長ニ歴任、其ノ間取締役ノ重責ニ在ルコト五ケ年、最後ニ本店建築事務局長トシテ畢生ノ努力ヲ傾注セラレ昭和三十六年秋ソノ新築落成ヲ見、翌年一月一切ノ職務処理ヲ了シテ静カニ舞臺ヲ去ラレタノデアリマス。前後四十年間ノ銀行生活ヲ通ジテ君ハ終始一貫誠実ノ人デアリ信義ノ人デアリマシタ。人ニ接スルニ謙虚、常ニ微笑ヲ含ミテ温容ヲ如ク而モ明晰ナル頭腦ト緻密ナル計画性ハ世人ノ高く評価スルトコロデアリ今後モ尚君ノ円満ナル人格ト高邁ナル識見トニ俟ツトコロ多クアリマシタノニ今俄カニ病革マリ不帰ノ客トナラレマシタコトハ誠ニ痛嘆ノ極ミ

たい。上のお嬢さんは、関西学院大学英文科を卒業されて、高校の英語の先生と成つておられる由。下のお子さんは未だ幼少である。残られた御遺族の方には、より力強く生きぬかれることを御祈りしてやみません。(遺族)

デアリ、殊ニ学窓ヲ同ジクシ濃カナル友情ニ結バレテ随時麻雀ノ卓ヲ囲ミテ談笑ヲ共ニシタル我々ノ寂シサハ何ニ譬エヨウモアリマセン。サリ乍ラ人生誰カ死ナカラシ、幸ニ君ノ令息令嬢ハ揃ツテ俊秀、父君ノ遺訓ヲ守ツテ後顧ノ憂ヒハナカルベク又君ガ精魂ヲ傾ケテ完成セラレタル北陸銀行本店ノ白亜ノ殿堂ハ永遠ニ富山市中ニノ偉容ヲ誇リ不滅ノ功績ヲ顕彰スルデアリマシヨウカラ希クハ安ラカニ冥セラレン事ヲ茲ニ葬送ノ儀ニ列シ恭シク香華ヲ捧ゲ深厚ナル弔意ヲ表シマス。

藤原 輝雄(昭二二)

(遺族) 昭和39年12月20日逝去

五 藤原愛子

安村 靖彦(大一一)

(遺族) 昭和39年11月28日逝去

坂野上佐吉(大一一)

(遺族) 昭和39年5月1日死亡

一、一八六 坂野上勝子

(編集後記)

この上とも健康でつづけられますよう祈るとともに、いつまでも愛される「緑丘」でありますよう、一人でも多くの方々に喜んでいただき、若い方々にも利用していただける「緑丘」になりますことを願って、今後とも御指導御鞭撻を御願ひする次第でございます。

冷暖房及び管工事全般設計監督施工

日邦工業株式会社

取締役社長 井 薬 政 市
相談役監査役 宮 地 邦 介 (大11)

大阪市西区南堀江通1丁目2番地 電話大阪 (531) 8461代 ~5番

出張所 堺市浜寺石津町東2丁目702番地 電話堺(0722)③2642番

工場 同上

住所変更(続き)

- (呼称変更による)
 永井民一(昭一六後)
 東京都杉並区本天沼三丁目四一番地二号
 能沢正義(昭八)
 東京都中野区野方町一丁目四六番地一四号
 石川孝一(昭一二)
 東京都杉並区本天沼一丁目一番地の九号
 岡田良太郎(大一一〇)
 東京都中野区野方六丁目四一番地八号
 武岡達良(昭一一)
 東京都杉並区天沼二丁目一五番地一四号
 五味泰造(大六)
 東京都世田谷区大原一丁目四九の一五
 桜庭幸雄(昭一二)
 東京都杉並区上荻三丁目八番五号
 佐々木周一(大四)
 東京都中野区松ヶ丘二丁目十一番十一号
 柄沢六郎(昭一三)
 東京都中野区江古田四丁目三九番の三号
 久米忠彦(昭九)
 東京都武蔵野市吉祥寺本町四丁目二六番二七号
 大平善悟(大一一五)
 東京都杉並区上荻三丁目二三の四
 亀山英夫(昭一六)
 東京都世田谷区羽根木二丁目三九の二
 雀部季吉(大一一〇)
 東京都杉並区天沼一丁目四四の四

岡林豊樹(昭二二)
 東京都杉並区天沼三丁目二六番三〇一〇三号

加茂学長

「孫」と楽しむ

(中央公論一月号所載)



これは今のところ私のただ一人の孫である。子供は愛に変わりはないが、孫にはそれにもましてとりつかれたような愛を感じる。それは私が時々上京したときしか孫に出会えないからかもしれない。最近この孫は交通巡査になりたいといっている。この孫が一人前になる二、三年後に宇宙交通の時代が始まって、その交通整理人になると考えると、この孫のヴィジョンも仲々楽しみである。それを思うと、私も永生きして孫の成長を見たい。

広告についてお願い

「緑丘」発展のために広告の御協力を御願ひ申し上げます。
 一回(一頁全段) 一、二、〇〇〇円
 一回(1/2段) 六、〇〇〇円
 一回(1/4段) 三、〇〇〇円
 年間契約の場合は割引いたします。
 代金は掲載後で結構でございます。

編集後記

■新年おめでとうでございます。今年はお正月の三千万部の新春号をお届けしました。新春号を毎年一月早々に発行し度いと計画しますが、皆様の都合がどうしても忘年会を兼ねて久し振りに顔合せする機会が多いため、原稿は早く年末、場合によっては年を越して御寄稿いただきまして、新春号の遅配について御諒承いただき度いと思っております。

■昨秋呉市音戸で全国で初めてと思われる、成功裡に終了しました事を報告出来ず、成功裡に三十九年度何よりの収穫と皆様と共に喜び度いと存じます。かかるブロック会議が福島県会津若松の総会に於ても今年度の目標として掲げられました。

■やがて静岡——浜松を結ぶブロックや千葉、埼玉、群馬、茨城、栃木関東ブロックが何時の日か開催されます事を期待いたします。

■寮を中心とした会合も旺んになりつつあります。一寮会に続いて次は何寮でしょう。楽しい会合への前進を祈ります。

■新春号が終って引き続き小林多喜二特集号が編集されつつあります。編集部は昭和八年二月二十日、多喜二が警視庁特高課員の勘問によって虐殺された前後の新聞記事を探がしていましたところとうとう発見しました。

■原稿も二十数名の方々から投稿がございました。未だ何処にも発表されなかった事のない写真やスケッチも貸与いたしました。

■校正を手伝ってくれている女房がスペースを少し下さいという。何事かというので編集後記に一寸との事御ゆるし下さい。

■新しい年を迎え緑丘もまた一年を重ねました。皆様のなかには、この緑丘がいつどんなに編纂されるかとお思いの方もありと思えます。家の者から見た編纂者の事をちょっと一筆。緑丘が生れてもう八年になろうとしております。はじめの頃は多趣味な主人が、また何かはじめてた位に思っておりましたが、いつもいつも休日は朝から夜おそくまで机の前に座ったきり、それが深更まで続きます。連休も勿論祝日も、そんな事でこれは大変な事だと思いましたが。何しろ勤務以外の事ですから仕事はほとんど夜と休日という事になりますので食卓が、そのまま仕事机になる事もしばしばです。家の中は関係書類や沢山の手紙、原稿、新聞の切りぬき、その他で一杯です。一分でも時間のおしい主人にすぐ仕事が出来るように適当に片づけ整理するのが私に出来る位です。おびたらしい写真、だんだん部数も増えてゆくにつれて名簿の整理、誌代の収支、住所変更その他のあらゆる雑用にとりまかれ驚く程の勢で片づけてゆきます。ほんとうに目まぐるしい人ですが、お蔭様で元気で朝になると本職の方に切りかえて定時には出勤します。こんなにして続けられてまいりましたのも、みな学長先生はじめ諸先輩、同窓の方々の御力ぞえ、御助言があったればこそと感謝しております。(前頁へつづく)

ご家庭に贈る!

世界の味



御贈答に 絶賛好評

全国デパート・有名食品店
明治屋等外商部取扱

エム・シー・シー食品株式会社

代表取締役 水垣敏正 (昭五卒)

神戸市長田区荻藻通5丁目15 TEL神戸(67)1245(代)